

9
2025

日本消防



- 第26回全国女性消防操法大会 第2回審査員研修会を開催
- ペルー共和国への「消防車両等国際援助事業」 大統領が参列し援助車両を引渡し
- がんばる消防団の味方 『全国消防団応援の店』へ行ってみよう！ ~長野・富山編~

□ 絵 第26回全国女性消防操法大会 第2回審査員研修会を開催

巻頭言 「佐賀県消防はひとつ… チーム佐賀県消防」日本一の強い絆が地域を守る！	（公財）佐賀県消防協会 会長 秀島 寛	1
第26回全国女性消防操法大会 第2回審査員研修会を開催	（公財）日本消防協会	3
日消の動き 地域防災力の一層の充実強化へ	（公財）日本消防協会 会長 秋本 敏文	4
特別表彰「まとい」を受賞して「京都府唯一の村を守り続けるために～南山城村消防団の使命と誇り～」	京都府 南山城村消防団 団長 柴垣 紀行	5
東西南北（秋田県）「村民の暮らしを守るために」	東成瀬村消防団 団長 鈴木 修	7
東西南北（福島県）「より実践的な消防団を目指して」	福島県南会津郡只見町消防団 団長 目黒 邦友	9
東西南北（三重県）「地域と密着した消防団に」	尾鷲市消防団 団長 高木 宗臣	11
シンフォニー（徳島県）「固い結束で生命と財産を守る」	佐那河内村消防団 班長 尾山 智美	13
消防団加入促進への取組み 消防団員確保の取り組みについて	宮城県 仙台市泉消防団 団長 柴田 孝一	15
災害活動報告 大規模林野火災に伴う岡山市消防団の活動について	岡山県岡山市消防団 団長 片山 敬史	17
災害活動報告 大規模林野火災に伴う玉野市消防団の活動について	岡山県玉野市消防団 团長 藤原 重喜	19
共済事業交付車両の活用事例	三重県 尾鷲市消防団	21
ペルー共和国への「消防車両等国際援助事業」 大統領が参列し援助車両を引渡し	（公財）日本消防協会 国際部	23
第26回全国女性消防操法大会 オリジナル記念Tシャツ	（公財）日本消防協会 総務部	24
がんばる消防団の味方 『全国消防団応援の店』へ行ってみよう！～長野・富山編～	（公財）日本消防協会 福祉部	25
第53回全国消防救助技術大会	（一財）全国消防協会	28
消防団の組織概要等に関する調査(令和7年度)の結果	総務省消防庁 地域防災室	31
熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について	総務省消防庁 救急企画室	34
大規模土砂災害時における救助能力の高度化について	総務省消防庁 国民保護・防災部 参事官	37
住民自らによる災害の備え	総務省消防庁 地域防災室	40
令和7年に発生した大規模な林野火災に係る防災功労者消防庁長官表彰式の開催	総務省消防庁 地域防災室	41
令和6年(1~12月)における火災の状況(概数値)	総務省消防庁 防災情報室	42
うちの名物団員	秋田県、福島県、栃木県、徳島県、佐賀県	43
うちの団のPR 地域密着、羽後町消防団！	羽後町消防団 本部長 佐藤 将彦	45
消防団の広場(栃木県) 地域防災力の中核として	市貝町消防団 団長 佐藤 兼二	46
不定期連載 図書館長の小部屋	（公財）日本消防協会 資料室・総務部	47

編集後記

表紙写真説明

「須川湖」

須川湖は旧栗駒有料道路の途中にあり朱沼とも呼ばれています。赤や黄の鮮やかな栗駒国定公園の木々が湖面に映し出され、美しい絵はがきのよう。須川高原は標高約1,100mに位置する大自然の庭園で、紅葉期には紅、黄と松の緑色が織りなす樹木と奇岩の絶妙なコントラストを演出します。

写真提供者：東成瀬村

第26回全国女性消防操法大会 第2回審査員研修会を開催

(3頁に掲載)



卷頭言

「佐賀県消防はひとつ… チーム佐賀県消防」 日本一の強い絆が地域を守る！

(公財)佐賀県消防協会 会長 秀島 寛



1 佐賀県の紹介

令和5年5月26日(金)から公益財団法人佐賀県消防協会会长に就任しています太良町消防団長の秀島寛と申します。

佐賀県は九州の北西部に位置し、東は福岡県、西は長崎県に接し、北は玄界灘、南は有明海に面しています。

気候は、年間の平均気温が16度前後の地域が多く、穏やかな気候で災害等も比較的少なく、大変過ごしやすい県です。

2 佐賀県消防協会について

現在佐賀県では、10市10町に消防団があり、令和7年4月1日(火)現在15,735名の団員が日々活動を行っています。また、県内17市町に女性消防団があり、374名の女性消防団の方々にも活動・ご活躍いただき、佐賀県は消防団組織率(住民数における消防団員の割合)が22年連続で全国一位となっています。

しかし、近年は佐賀県においても年々消防団員数が減少しています。当協会も県等の関係機関と協力し、消防団員確保対策事業に取り組んでおり、地域の事業所に『消防団応援の店』として登録いただき、消防団員がホテル、旅館、飲食店等を利用した時に割引等のサービスを受けられる制度や、地元新聞やテレビ局のコマーシャルに消防団員が出演し、地域での活動の様子や消防団の取り組み等を広く県民へ広報する消防団PR事業等を行っております。より身近に消防団やその活動を知ってもらい、地域で消防団を育て、応援していく、そのような支援を今後も取り組んでいきたいと考えています。



【消防団PR事業】

<https://saga-hero.com/>



3 太良町等での活動

私の地元、太良町消防団では、入退団式や夏季点検、新年の出初式、全団員訓練や分団訓練、年末警戒などの行事を実施しております。現在の消防団員はサラリーマン等で日中不在となる者や夜間や休日に働く団員も多くなり、火災や防災活動等に対応可能な人員が減少しております。そのため、太良町では令和3年度から機能別消防団員として消防団員OBに再入団してもらい、消防職員や消防団員の後方支援や新入団員への指導などを行う支援団員として活動を行ってもらうことで、町の人口が減少する中でも町村合併から70年の間、条例定数500名を確保し、日々の消防団活動を行ってきております。

また、令和元年から令和3年に発生した佐賀県での豪雨災害では県内各地で大規模な災害が発生し、近隣市町でも長期間に渡る浸水により多くの住民が被災されましたが、太良町消防団を始め、近隣7市町で構成する杵藤地区の消防団で一致団結し、いち早く被災地域への支援を行いました。

太良町においても令和2年7月に発生した大雨により多良川流域では越水による浸水被害が発生し、多くの住民が被災されました。避難所へ多くの住民が避難する中で、消防団は地域住民の避難誘導や警戒等を行い、幸いにも人的被害は発生しませんでしたが、被災した住宅の対応や用排水路等の土砂撤去のほか、浸水被害で多くの住宅から出た被災ゴミ等の受入れ対応など、地域住民と消防団、町職員やボランティアのみなさま方のご協力を得て、現在は無事に平穏な日常を取り戻すことができました。この際、他市町への支援活動時に経験したことを活かし活動をできたこと、また近隣市町からのボランティアなどの協力を受けることができたのは大変喜ばしく、この支援の輪を大きく育てていきたいと考えております。



被災地支援の様子

通常の訓練や活動においても近隣市町で構成する杵藤地区消防協会では積極的に交流を行っております。各市町の団長を始めとした

幹部消防団員間での意見交換や交流のほか、令和6年度には7市町すべての消防ラッパ隊が参加し、合同ラッパ吹奏・指導会を実施しました。各種式典や行事等で花を添えるラッパ吹奏については、日頃から吹奏訓練に励んでもらっていますが、訓練の結果を披露する機会や他のラッパ隊の吹奏を聞く機会は少ない状況となっていたため、地域消防団のラッパ隊活動を盛り上げ、隊員の士気高揚と技術のさらなる向上を目指して実施しました。参加した隊員からも吹奏披露の場があることで明確な目標ができ、目に見えて練度が向上したなどの声もあり、今回の取り組みは良い刺激となり、今後のラッパ隊活動の活性化に手ごたえを感じております。

4 終わりに

佐賀県消防協会としましても日頃から災害へ備えることが重要と考え、現場指揮を行う団長に参加いただき、毎年県外の被災地視察等を実施しています。近年は災害が激甚規模化、多様化する中で、現場指揮を行う団長以下幹部消防団員、また団員のみなさまの災害対応等に関する知識の習得や経験を得る機会を作り、一人一人の消防団員の質を高めていくことは人口減少が進む日本において大変重要なことと考えています。

また、消防団員の確保のための取り組みも重要であり、新入団員の勧誘や女性・消防団員OB等の参画にも積極的に取り組んでいく必要があります。私の地元では県内2例目となる外国人消防団員も入団をされ、現在は訓練や地元消防団・地域住民との交流にも積極的に取り組んでいただいております。

消防団は地域住民や消防署、市町等が一つのチームとして一致団結し目標に向かって活動を行う組織です。全国の消防団員、関係者のみなさんと『ワンチーム』で安心・安全を地域住民のみなさまへ感じていただけるよう引き続き取り組んでまいります。

結びに、日本消防協会並びに全国の消防団関係者の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

第26回全国女性消防操法大会 第2回審査員研修会を開催

(公財)日本消防協会

令和7年8月28日(木)・29日(金)の2日間、東京臨海広域防災公園において、第26回全国女性消防操法大会(以下「今回大会」という。)第2回審査員研修会を開催しました。

この審査員研修会は、今回大会の実施に伴い審査員26名にお集まりいただき、操法実施要領、操法審査要領の統一を期すために開催しました。

審査員研修会に参加した審査員は、大会当日を想定して実技研修で模擬審査を行い、審査員の動きの確認、審査上の注意点等を再確認しました。また、審査要領及び行動要領等、審査を行う上で必要なスキルを向上させることができました。



日本消防協会 会長激励



日本消防協会 業務部長挨拶



実施要領・審査要領の確認



実技研修の様子

地域防災力の一層の充実強化へ

(公財)日本消防協会 会長 秋本敏文

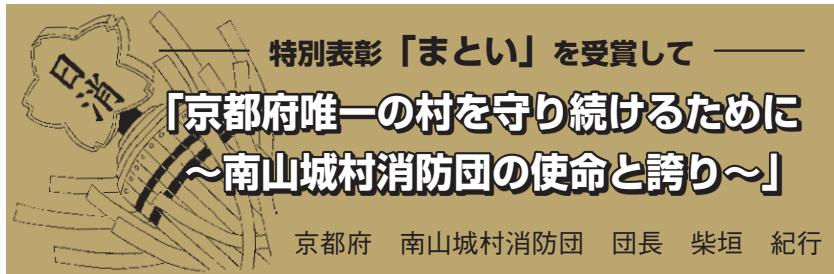
阪神淡路大震災発生の年、6月に消防庁長官に就任して、全国応援体制の緊急消防援助隊の創設に取り組んだのですが、神戸市内の状況等を見ていますと、地域の皆さんご協力の地域防災体制も大事だと思って、「検証 阪神淡路大震災と消防」と題するビデオを製作してそのことを訴えるなどし、東日本大震災後、平成25年に「消防団を中心とした地域防災力の充実強化に関する法律」を制定して頂き、翌年には、全国各地の活動状況を発表して頂く国民大会を東京・有楽町国際フォーラムで開催しました。

そこから、次は、政府の動きが加わります。有楽町大会では、全国各地から活動内容報告だけでなく、お芝居や応急手当動作を取り入れた体操、少年消防クラブの簡易ポンプ操作披露などいろいろとり入れ、発表の合間には、真面目なご意見だけでなく、スポーツ選手の激励などもやって頂きましたので、楽しい3時間でもあったのですが、そこには安倍晋三総理(当時)にもご出席頂き、激励して頂きました。そして、翌年政府において、各界の代表の方々による防災推進国民会議が設置され、以後、毎年、「ほうさい こくたい」が全国各ブロックで順次開催されています。ここで、日消はいつも何らかのテーマによるシンポジウムを開催しています。

日消は、これだけではなく、隨時、地域防災力の充実強化をめざす事業を行っていますが、令和6年の新日本消防会館完成に伴う記念イベントのひとつとして、令和6年11月7日、「地域総参加の防災力向上大会」を開催し、この時、地域における活動事例として二つのグループの発表をして頂きました。

従来は地域の皆さんのがんばって実施しておられる事例が主体でしたが、この時はひとつのグループとして、建設業の方、解体業の方、移動スーパーの方、漁業関係の方から、それぞれの事業の実施、発展のなかで、地域防災の充実に貢献して頂いているご様子を発表して頂きました。これらは会場の皆さんにも強いインパクトを与えることとなり、地域防災活動の多様性の大しさを感じさせられました。

そのような経験を経て、今年の新潟市での大会では、「地域総合防災力の発揮」をタイトルにしました。これから活動では、さまざまな内容の活動が大事で、それは多彩な皆さんのご協力によってはじめて実行できる、そのようなことを皆さんに承知して頂きたいと思ったものです。そして、具体的なご活動のPRは、ますます大事になっていると思います。日消会館1階の日本消防防災情報センターでも、いろいろなご活動を皆さんにご紹介したいと思い、そのような映像のご提供をあらためて全国にお願いしているところです。よろしくお願ひいたします。



1 はじめに

令和7年3月7日(金)に日本消防会館(ニッショーホール)にて厳粛かつ盛大に開催されました「第77回日本消防協会定例表彰式」において、私たち南山城村消防団は特別表彰「まとい」を受賞いたしました。

全国に約2,200ある消防団の中から、受賞させていただきましたこと、喜びとともに大変身の引き締まる思いであります。

この受賞は、これまでの南山城村消防団を築き上げてこられた諸先輩方の歴史、何よりも日頃から地域の安全と安心を守るために尽力している団員一人ひとりの努力の賜物であると考えています。

また、消防団活動への理解と協力を惜しまない地域住民の皆様、関係機関の皆様の支えがあって実現したものであり、心から感謝申し上げます。私たちは、この受賞を一つの節目として、今後も「自分たちの村は自分たちで守る」という精神のもと、さらなる消防防災活動の充実を図ってまいります。

2 南山城村の紹介と特産品

南山城村は、京都府の最南東部に位置し、奈良県、三重県、滋賀県と接する京都府唯一の村です。人口は約2,300人と小規模ながら、豊かな自然と温かな人のつながりに恵まれた地域です。村の面積は64.11km²であり、村内中心部に木津川が流れ、その木津川を囲む山々で山間集落を形成し、四季折々の風景が人々の心を和ませてくれます。

自然環境を活かした特産品が数多くあり、なかでも村内中心部を流れる木津川が生み出す霧や寒暖差のある気候から生み出す「お茶」は、京都府内有数の生産量を誇り、味・香り



第77回日本消防協会定例表彰式

ともに高い評価を得ている宇治茶の主産地として知られています。

また、「原木しいたけ」や「ブルーベリー」など、山の恵みを活かした農産品も充実しており、村の特色を活かした多くの特産品が生産されています。

しかしその一方で、土砂災害、河川の氾濫、急傾斜地での地すべり等の様々な自然災害のリスクを抱えています。年々高齢化が地域全体で進行し、限られた世代で小規模ではありますが、現役消防団員は、多種多様化する生業の傍ら、日々災害時の初動対応力を高めることが求められ訓練に励んでいます。

このように、自然の美しさと恵みを活かしながら、暮らしを営む南山城村において、私たち消防団は、災害から村の大切な財産・資源を守り、地域の暮らしを守るという責任を強く自覚し、活動を続けています。

3 南山城村消防団の概要と取り組み

南山城村消防団は、昭和30年4月1日(金)に大河原村・高山村の合併により結成され、現在は2つの分団・132名の団員で構成され本年発足70年を迎えました。村内各地区に配置され、平常時から地域に密着した活動を展開しています。主な活動内容としては、火災や自然災害時の出動をはじめ、防火啓発活動、



村の消防操法大会

年末警戒、防災訓練への参加、地域行事での警備活動など、多岐にわたる場面で村民に密着し寄り添った活動をしています。その中で、特に山間集落である村内の地形や特性に応じた訓練を定期的に実施し、緊急時に迅速かつ的確に対応できる体制の維持・向上を図っています。その他にも訓練では、年2回の火災予防運動週間に併せた非常招集訓練や、近隣市町、隣接する地域性の中で、府県を超えた交流や共同による訓練の実施など、実践に即した訓練と顔の見える関係を定期的に実践しています。

また、平成30年には京都府消防操法大会小型ポンプの部で優勝し、全国消防操法大会にも出場することができました。この府操法大会での優勝や、全国大会への出場は南山城村消防団にとっては悲願の達成もありました。これまで府大会への上位進出はあったものの、辿り着けず苦悩してきました。操法の訓練・技術については、消防団員の基本動作として必要不可欠なものであると考えています。昨今、操法の在り方については様々なご意見、議論があることと承知していますが、時代に合わせた操法訓練を実施し、歴代団員が必死に技術を研究し、団員へ継承してつなぎできたものを次世代へ技術として継承しながら形式にこだわらず継続して取り組んでいかなければならぬものと考えています。

一方で、団員数の維持・確保という課題にも直面しており、若手団員の確保や女性団員の参加促進、機能別消防団員制度の導入、学生消防団活動認証制度の活用を通じて、地域の消防意識の醸成に向けた啓発活動にも力を入れています。地域住民とともに歩む消防団として、日々の訓練・活動を通じて信頼を積



第26回全国消防操法大会

み重ね、「頼られる消防団」を目指して取り組みを続けています。

4 おわりに

昨今、地震や集中豪雨など、災害はいつどこで起こっても不思議ではない時代となりました。高齢化や過疎が進む中、初期対応の重要性はますます高まっています。そうした中で、地域防災の要として、誇りと責任を持って活動しています。今回の「まとい」受賞は、今後の活動にとっても、大きな励みであり、誇りとなるものです。このいただいた栄誉に慢心することなく、これからも地域の安心・安全を守るべく精進していかなければならぬと考えています。

全国的に消防団員が減少している課題の中で、各地域の消防団の皆様の苦労も多くある事かと思いますが、我々のような小さな規模の村でも、「まとい」が受賞できるようご尽力、ご指導を賜りました京都府消防協会、日本消防協会の皆様をはじめ関係各位には、この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。今後も団員確保、時代に合わせた柔軟な対応を心がけ、引き続き村の防災力強化に全力を尽くし持続可能な安全・安心のまちづくりに貢献してまいります。今後とも、南山城村消防団へのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



南山城村消防団公認キャラクター



「村民の暮らしを 守るために」

東成瀬村消防団 団長 鈴木 修



1 東成瀬村の紹介

東成瀬村は、秋田県の東南端に位置し、東は奥羽山脈を境に岩手県に、南は宮城県に接していて、東西に17km南北に30kmと細長い地形をなし、総面積203.69km²のうち山林原野が93%、このうち国有林がほぼ半分を占めています。

村の中央部を成瀬川が縦断し、これに沿って大小様々な集落が点在しています。

標高は最低で160m、最高1,424mの秣岳周辺は風光明媚な栗駒国定公園となっています。

気候は概して冷涼で、積雪は2m、多いときは3~4mに達し、積雪期間は5か月にもおよぶ特別豪雪地帯です。



東成瀬村

2 東成瀬村消防団の紹介

東成瀬村消防団は、3分団10部で構成されており、令和7年4月1日現在150名(条例定数200名)が所属しております。ほとんどの団員は分団及び部に属し、警防活動や消火活動を担当しておりますが、最近はもともとの村民のみならず若者の移住者が入団し活動に協力する傾向があり、大変頼もしく感じております。

また、本団の特徴の一つとして、平成

29年に発足した女性消防団員が活躍していることが挙げられ、現在10名が所属しております。

主な装備としては、小型動力ポンプ積載自動車が11台、積載されたもの含め小型動力ポンプ18台を保有しており、特に狭い急な坂道が多い当村のような中山間地域において機動力を發揮しやすいのが特徴です。

3 東成瀬村消防団の活動

東成瀬村消防団は、地域における消防防災の要として、年間を通じて火災予防活動や警防活動、そして火災発生時の消火活動や山岳遭難者の救助活動など多岐にわたる様々な活動を行っております。

4月は春の火災予防運動に合わせ、消防団の小型ポンプ積載車、役場と消防署の防災活動車で、村内を回る防火パレードを行い、特に乾燥期における原野火災の防止を呼び掛けております。

7月は村消防訓練大会を行っており、団員は日頃の訓練の成果を発揮し、小型ポンプ操法の部と規律訓練礼式の部において各分団で競い合います。村消防大会の小型ボ



地区でのポンプ操作講習



秋田県消防操法大会への出場



出初式

ンプ操法を優勝した部は、7月下旬から8月上旬にかけて行われる支部の消防訓練大会に出場し、そこでも優勝すると8月の県消防操法大会に出場します。ここ数年は当消防団から県大会へ7大会連続で出場しており、その活躍が注目されております。

秋には幹部団員による視察研修を行っており、他の自治体における消防防災の先進事例や参考事例について学んでおります。近年は災害の実体験を踏まえた防災活動について学ぶことが多く、研修の場で体得した知見は各部の団員にも伝達され、実際の活動に役立っております。

1月には出初式があり、団長による年頭訓示を行い新年の活動のために決意を新たにするとともに、無事故・無火災を祈願します。また、団員の勤続表彰もこの場で行っているため、長年活動に貢献した団員の士気を高める役割も果たしております。

冬期間においては、防火水槽や消火栓などの消防水利、そして防火用水の機能を持つ水路の点検や除雪を各部単位で行っており、豪雪地帯における消火活動に支障を来たすことのないよう注意を行っています。

また、当村は山菜採りを目的とした入山者が遭難する事故がしばしば発生しております、その迅速な発見と救助に貢献することを目的に、山岳遭難救助活動も行っていることが大きな特徴です。遭難救助隊員は、消防団員の中で地域の山に詳しい19名、そして民間人13名の計32人で構成されており、消防署や警察機関と協力しながら捜索

活動を行い、大きな成果を上げております。

女性消防団員は、本部に所属しながら平常時及び災害発生時の活動を担当しております。平常時には、火災予防や地域防災に関する広報・啓発活動を行っており、地元の保育園などにおける防災教室なども開催しております。災害発生時においては、負傷者の救護支援や災害弱者の支援を担当することになります。

4 さいごに

近年は、全国各地で災害が多発しております、規模も激甚化の傾向にあります。特に、昨年の7月下旬に発生した豪雨災害においては、村内においても人的被害こそなかったものの、今までになかった規模の被害をもたらしたこともあり、地域防災の中核である消防団の重要性は一層高まっているものと認識しております。

しかしながら、全国的にみても少子高齢化による団員の高齢化、団員のなり手不足など様々な課題があり、当村もその例外ではありません。それでも、団員数の大幅な増加を今後過度に期待するのは現実的とはいえず、それよりもむしろ既存の団員のスキルアップを進め、村当局の理解を得ながら装備の機能強化を行うなど、少ない団員数でも防災力の維持を図るために体制作りを強化する必要があるものと考えます。

課題は様々ですが、関係者との協力関係を強固なものにしながら、今後も地域を守る消防団として、地域住民の生命や財産を守れるよう精進してまいります。



「より実践的な消防団を目指して」

福島県南会津郡只見町消防団 団長 目黒 邦友



1 只見町の紹介

只見町は福島県の最西部に位置し、豪雪地帯であり、水稻と夏秋トマトの生産と水力発電が盛んな地域で、大水害から奇跡の復活を遂げたJR只見線が只見川沿いの絶景の中を走っている。四季の明瞭な景観はまさに日本の原風景を見せ、特に5月の新緑と残雪はアルプスを思わせるような景観で、見る人を魅了している。

現在の人口は約3,500人でその内の約8.6%、304名が消防団員として従事している。(内11名が女性消防団員)

2 近年の取組み

より実践的な訓練を意識し、水利が無い場所での火災を想定し、ミキサー車での水運搬や散水車を活用しての消火訓練などを行っており、山林火災の対応としても役立つと思われる。豪雪地帯であるため冬場の水利の確保に苦労することもあり、除雪機による消火活動を実施した経緯もある。

また、消防団の責務として火災時の消

火活動は基本であるが、災害時の救助、避難支援活動も重要な役割であり、より現場で機能するために、これまでの消火優先の車両等設備から防災的な役割を意識した整備に切り替えている。具体的には、消火用ポンプ積載車の約半数を軽トラックに変更し、通常時は消火用ポンプを積載しながらも、水害等の災害が発生した際には、より汎用性もあり積載量が多く、狭い路地にも入って行くことができるよう、ラストワンマイルの救助や支援活動が実施できるよう整備方針を切り替えている。

女性消防団員の取組みも活動的で、救助活動の研修や消防検閲式への参加はもちろんだが、女性団員のみでの消火訓練、春秋の防火パレードでの生放送も率先して行い、町内の保育所でオリジナル紙芝居による子どもたちへの注意喚起を行ったりしている。有事の際、特に出火した方については精神的にショック状態の中、事情聴取に応じなければならず、特に女性や高齢の方が聴取されるときには、警



ミキサー車



散水車



布沢雪消火

察署、消防署双方から異なったタイミングで聴取されることを防ぐため、女性団員が寄り添い聴取を仕切るなどの取組みを行っている。捜索事案の発生時においても、遭難した家族のケアなど精神的に弱っている方の支援ができるような体制をとっている。女性は出産・子育てなど活動が制限される場合があるが、無理せず、個々のライフスタイルに合わせて活動することを心がけ、消防団活動を行っている。

3 平時の心がけ

火事、捜索、水害等有事の際に素早く的確に行動するためには、普段からの人的ネットワークの構築が重要である。通常時から、より濃密なコミュニケーションをとるよう心掛け、困った時、必要とされる時と場所に応じて迅速に、安全に対応できる体制づくりに心がけている。消防団活動は人力のみならず機械などを使用することも多く、重機や救助船などの手配と操作も同様に対応できる体制を構築している。管轄の警察署、消防署とも友好な関係を作り、有事の際はそれぞれの得意分野を活かしながら連携し、発生した事案に対し早急に対応できる体制づくりも併せて行っている。

4 過去の災害の経験と恩返し

人口減少により当町でも消防団員数は減少しているが、前述のように消防団加入率は非常に高く、町民の約12人に1人が消防団員となっており、先人の活動を受継ぎ、町全体の協力体制が構築できていると感じている。平成23年の東日本大震災、新潟・会津豪雨災害の折には土のう積みなどの応急対策や住民の避難誘導、避難所の管理、土砂の撤去、行方不明者の捜索など非常に多くの分野において献身的な活動を行った。日頃からの予防活動等に加え、大規模災害の折の消防団員の活躍には頭が下がる思いである。

平成23年新潟・会津豪雨は「線状降水帯」という言葉が無い頃であったが、経験したことがない大雨が長く続いた気象状態で、まさに線状降水帯が発生した事例であった。昨今では、全国各地で毎年のように大水害が発生しているが、線状降水帯が発生すると甚大な被害が生じるため、特に気を付けて備えている。当時を振り返ると全国各地の多くの方からの支援を思い出す。他市町村の消防団の方やゆかりのある方、全く縁故の無い方から多くの人的、経済的、物的支援をしていただいた。大水害以降多くの相互応援協定を締結し災害に備えているが、今後、協定の有無にかかわらず、恩返しをしていきたい。



「地域と密着した消防団に」

尾鷲市消防団 団長 高木 宗臣



1 尾鷲市の紹介

三重県尾鷲市は、紀伊半島東部、熊野灘に面した自然豊かな港町です。昭和29年6月20日(日)に、北牟婁郡尾鷲町・須賀利村・九鬼村、南牟婁郡北輪内村・南輪内村の5町村が合併し、尾鷲市が誕生しました。市の面積は192.71平方キロメートルで、その約90%を山林が占めており、平坦地が少なく、集落は主に湾の奥に位置しています。地形は変化に富んだリアス海岸を形成し、美しい自然景観を有しています。

令和2年の国勢調査によると、人口は16,252人、世帯数は8,153世帯。気候は黒潮の影響と三方を囲む山々の地形により、全国有数の多雨地帯として知られ、年間降水量は約4,000mmに達します。林業や

漁業が古くから盛んで、特に「尾鷲ヒノキ」は高品質な建材として名高く、地域の特産品です。また、世界遺産「熊野古道・伊勢路」の通過地として、歴史と文化を伝える観光資源も豊富です。

2 尾鷲市消防団の紹介

尾鷲市消防団は令和7年4月1日(火)現在、団本部、基本団員15分団及び機能別団員で構成されており、条例定数220名に対し、基本団員186名(男性166名、女性20名)機能別団員10名(ドローン隊3名、大規模災害団員7名)で構成されています。

主な装備としてはポンプ車1台、小型動力ポンプ積載車12台、小型動力ポンプ軽積載車5台となっており、狭隘な道が多い地区には軽積載車を配備しております。



出初式



小学校での防火学習

3 尾鷲市消防団の活動

尾鷲市消防団の主な活動としては、1月の尾鷲市消防出初式から1年がスタートします。団員の表彰・一斉放水・配備されている全車両による市内パレードを行い、団員に対し地域防災の一翼としての自覚を再確認してもらっています。5月にはちびっこ防災フェアというイベントに参加し、男性消防団員による防火服着用と放水体験、女性消防団員による子どもへのAED体験を行っています。尾鷲市の未来を担う子ども達へ消防団を身近なものに感じてもらうとても良い機会ですので、今後も継続して参加していくと考えています。6月には尾鷲市関係機関合同災害対処訓練に参加し、消防本部・警察署・自衛隊・海上保安部等の関係機関と連携し、大規模災害時の地域防災として公助との連携を強化する訓練に参加しております。毎年7月から

8月の花火大会シーズンには各地区で行われる花火大会への警備に従事し、市民の皆様に安心して花火大会を見て頂けるよう努めています。11月には秋季訓練を開催し、例年訓練礼式・警防訓練を行っております。昨年度は地震災害時の活動について、消防職員より能登半島地震を踏まえた消防団の重要性を講義いただきました。専門的な座学を受ける機会がない団員も多くいる中で、命を守るために重要な内容を知ることができ、とても良い訓練となりました。その他1年を通して、放水訓練・水利点検・消火栓BOX点検・避難路の整備・小学校等への防災学習に従事しており、地域と密着した消防団を目指し活動しております。



女性消防団員による子どもへのAED体験

4 おわりに

全国的な人口減少の影響を受けており、消防団員の高齢化も進んできております。今年度から、機能別団員制度を設け、主にOB団員で構成される大規模災害団員とドローンの操縦資格を有している市民にドローン隊として入団していただきました。専門的な技術や知識を有している若年層や女性の入団を促進し、これからも地域防災の一翼として活動して参ります。



シンフォニー（徳島県） 「固い結束で生命と財産を守る」

佐那河内村消防団 班長 尾山 智美

1 はじめに

佐那河内村は、徳島県の北東部に位置し、すだちやみかんといった果樹の段々畑や田んぼが広がる、自然豊かな徳島県唯一の村です。基幹産業は農業で、すだちやみかん、高級ブランドいちごの「さくらももいちご」などが有名です。また、標高約1,000mの大川原高原には、7月に3万本のアジサイが咲き誇り、多くの人が見学に訪れます。

その他、「常会」という住民自治組織が集落ごとにあり、月1回、定例会が開催されています。単に事務連絡の場というだけでなく、住民同士のコミュニケーションが図れる機会にもなっており、住民同士のつながりが非常に強い村でもあります。

2 消防団・女性消防隊について

村には常備消防が無いため、火災時には消防団が最後まで火を消し止めるという、非常に重要な役割を担っており、なくてはならない存在となっています。

女性消防隊は、広報活動や災害時等の後方支援を目的に平成29年に結成され、現在は40代・50代の5人で活動しています。子育て真っ最中の人が多く、子どもの行事と消防団活動が被るときもありますが、「できる人ができる時にできることをする」という考え方で、それぞれが無理なく活動に取り組んでいます。また、5人がそれぞれの得意分野を生かして、支え

合いながら活動ができているのも私たちの強みです。

3 普段の活動について

前述のとおり、女性消防隊の主な活動は、広報活動と災害時等の後方支援です。

年2回の全国火災予防運動時には、手分けして村内を広報車で走り、野焼きやたばこのポイ捨て禁止等の注意を呼びかけます。

保育所での避難訓練の際は、火災時の「おかしもち」などの説明のほか、紙芝居や先生方の消火器訓練も行います。訓練に持つて行く小道具は、元保育士の隊員が中心となって製作するため、子どもたちにもわかりやすく、よろこんでくれます。その他、村内施設の防災訓練にも呼んでいただき、胸骨圧迫や消火器の使い方の実演もしています。大人も子どもも、



保育所訓練



第29回全国女性消防団員活性化とちぎ大会

みなさん訓練に真剣に取り組んでくれるので、非常にやりがいを感じます。

また、村で開催されるイベントに出展し、消火器の使い方や、南海トラフ大地震への備え、非常持ち出し袋の説明などの啓発を行っています。

活動のための訓練や研修会にも積極的に参加しています。県の防災センターで開催される研修会に参加するほか、村の救急救命士から、胸骨圧迫等の応急処置やロープワークなども定期的に教えてもらっています。胸骨圧迫は、訓練を繰り返しているうちにだんだんと自信を持つてできるようになってきています。

4 全国女性消防団員活性化大会 パネル展示初出展

私たちは、これまで参加した活性化大会のパネル展示で多くの情報をいただき、活動の参考にしてきました。徳島県消防協会からの勧めもあり、今までの恩返しに何か伝えられることがあればと、思い切って昨年のとちぎ大会で出展することに決めました。しかし、初めてのこと

勝手がわからず、何回も集まって話し合いを重ねました。今までの活性化大会で見てきたものを参考に、どうすれば興味を持ってもらえるか、何か配った方が良いのではないか、など、私たちなりに工夫し納得のいく展示を作ることができました。

当日は、多くの方に私たちの活動をお伝えし、「参考にしたい」と言っていただったり、消防非常備村ということで多くの激励をいただき、出展して本当に良かったと思います。

5 今後の活動について

徳島県は、南海トラフ大地震で大きな被害が想定されています。また、近年の異常気象で洪水や土砂災害のリスクも高まっています。避難所の設営訓練、避難所HUGの研修会などにも参加し、今までの復習と情報のアップデートを行いながらスキルアップに努めるとともに、有事の際は村民の生命と財産が守れるよう、これまでの経験をできるだけ多くの方に伝えていければと思います。



消防団員確保の取り組みについて

宮城県 仙台市泉消防団 団長 柴田 孝一

仙台市泉消防団は、市内7消防団のうち市北部の泉区を管轄しており、令和7年4月1日(火)現在、14分団332名の団員で構成されています。管内には、区のシンボルとして親しまれている日本三百名山・泉ヶ岳や、仙台市の副都心である泉中央などの商業地域を有し、自然と都市機能が調和した地域を管轄しています。

また、階子乗り隊とラッパ隊が編成されており、当市を代表する祭りである「仙台・青葉まつり」や伝統の「仙台市消防出初式」等で演技・演奏を披露するなど、地域に根差した活動を展開しています。

① 地域イベントにおける広報活動

入団促進を効果的に図るため、最も身近な入団候補者である地域住民へターゲットを絞り、地域との関わりが深い団員による広報活動に重点を置いています。

各分団が地域のイベントに積極的に参加し、イベントの安全・安心を確保しつつ、顔見知りの団員がリーフレット配布などの広報活動を行うことにより、活動の理解促進と入団のハードルが下がることを期待しています。

② 泉消防団広報プロジェクトチームの結成

活動の理解促進と、時勢に応じた入団促進活動を図ることを目的として、令和2年度に「泉消防団広報プロジェクトチーム」を結成し、広報に長けた団員による入団促進イベン



広報イベント



ト・ポスター・広報誌等の企画を継続的に行っています。

団員自身がモデルとなって広報活動を行い、顔見知りの地域住民から認知度を広げていく活動を目指す中で、作成したポスターを見て入団を志した団員も複数おり、活動の実効性を実感しています。

③ 今後の展望

仙台市は人口減少局面が間近に控えており、今後更なる入団者の減少が予想されます。活動の持続性を確保するため、入団者の確保に加え、職業・学業と無理なく両立できるよう、入団後の継続的なサポートも合わせて喫緊の課題であると認識しています。

この対策として、前述した取り組みのほか、当市が設けている「消防団協力事業所表示制度」による、複数の団員が在籍する事業所等が地域への社会貢献を広くPRできる仕組みや、「学生消防団員活動認証制度」による、1年以上継続的に消防団活動を行った大学生等が就職活動等の場で社会貢献の実績をPRでき

る仕組みなど、団員の活動環境や意欲の向上を図る取り組みの更なる推進が必要であると考えています。

団員が持つ地域のつながりを最大限に生かし、持続可能で魅力のある消防団づくりと、団員確保の取り組みに注力していきます。

The magazine cover features the title "TOGETHER! 泉消防団" in large, bold letters. Below the title is a circular logo with the word "FIRE" and a stylized symbol. A photo of a group of firefighters in blue uniforms is shown. Text on the cover includes "人と街を想う 泉消防団の活動と役立つ消防知識を提供します。" and "消防団員の3つの分野を紹介します!" with bullet points: "消防・上級科・既卒科" and "特集:特別直撃ってなに?". Contact information at the bottom includes a phone number (022-373-0119), fax (022-374-9001), and email (info@takamatsu-fd.jp). There is also a QR code.

広報誌



広報ポスター



大規模林野火災に伴う 岡山市消防団の活動について

岡山県岡山市消防団 団長 片山 敬史



1 はじめに

令和7年3月23日(日)に発生した、岡山市南区飽浦地内の林野火災に際し、公益財団法人日本消防協会をはじめ、多くの方々にご支援をいただき、また、消火活動においてご協力をいただいた岡山県内消防本部、岡山県消防防災航空センター、県外防災(消防)航空隊(香川県・鳥取県・神戸市)、自衛隊の関係者の皆様に、深く御礼を申し上げます。

2 岡山市の概要

本市は、中国地方の東南部に位置し、中国山地を背にした風光明媚な瀬戸内海に臨む面積789.95km²、人口約70万人の岡山県の県都で、京阪神、九州、四国を結ぶ重要な地点になり、古くから海陸交通の要衝として知られています。

3 岡山市消防団の概要

岡山市消防団は、1団、17方面隊、99分団で構成されており、令和7年6月1日(日)現在の実員は4,424人(条例定数4,660人)の組織で活動しています。

消防車両は165台(ポンプ車41台、可搬積載車124台)を配置しており、岡山市内それぞれの地域を守っています。

4 岡山市南区飽浦地内の林野火災について

令和7年3月23日(日)15時02分に覚知した、岡山市南区飽浦(あくら)地内の林野火災は、令和7年4月11日(金)12時00分の鎮火まで20日間を要し、貝殻山山系486haを焼損する、岡山県下過去最大規模となりました。



貝殻山山系延焼状況

発災当初から延焼拡大が予測されたため、その日のうちに岡山県内外応援及び自衛隊への派遣要請を行い、24日(月)早朝から活動していただきました。



各県防災ヘリコプター



岡山県内応援隊

5 岡山市消防団の活動

発災当初、地元分団のほか7分団に出動指令がかかり、活動を始めました。

私は当時、副団長という立場で現場に入りましたが、発災から3日目の3月25日(火)、強風による延焼範囲の拡大を受け、消防団長指揮下での活動となり、そのころには活動する分団数も増加していました。

私の任務は、活動する消防団員の活動ローテーションなど、出動分団の管理及び情報収集を行いましたが、これだけ大規模な林野火災は初めてであり、また昼夜問わず活動を行ったため、どういう活動をしたのか思い出せないくらい疲弊したことを覚えています。

鎮火までの20日間のうち、消防団が活動したのは9日間でしたが、延べ2,194人の消防団員が活動し、住家や人的被害を出さず鎮火に至ったことは、本当に良かったと思います。

また、活動した消防職団員についても負傷者がおませんでした。奇跡です。



夜間の延焼状況



消防団員の活動

6 被害状況

(1) 林野被害

岡山市南区地内

貝殻山山系 486ha 焼損

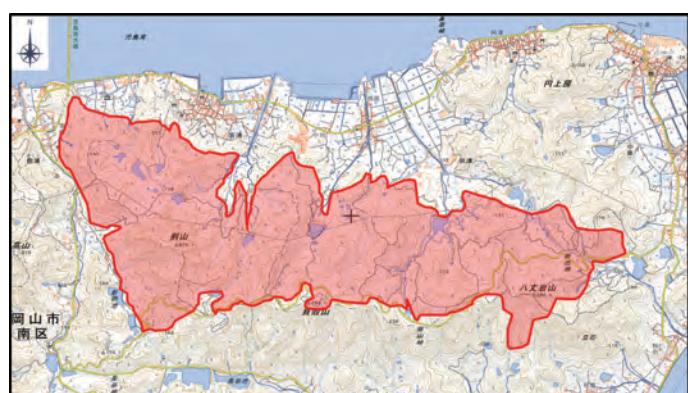
(2) 人的被害

無し

(3) 建物被害

空き家及び倉庫の計6棟焼損

(令和7年5月31日(土)現在の調査)



焼損範囲

出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp>)

加工：岡山市消防団にて編集

7 おわりに

今回の大規模林野火災での消防団活動にあたり、消防団員に対する指示や、常備消防との連携など、多くの課題が見つかりました。

今後、大規模災害の発生が予測される中、この林野火災で得た経験を活かし、課題を一つずつ解決することで、より一層地域を守れる強い消防団を目指していく所存です。



大規模林野火災に伴う 玉野市消防団の活動について

岡山県玉野市消防団 団長 藤原 重喜



1 はじめに

令和7年3月23日(日)(岡山市消防局覚知:15時02分)に隣接する岡山市南区飽浦地内で発生した林野火災は、鎮圧日時3月28日(金)12時00分、鎮火日時4月11日(金)12時00分と20日間にわたり延焼し、県史記録史上最大の486haを焼損しました。

玉野市管轄は14haの焼損でしたが、今回の林野火災の玉野市消防団の活動について報告します。



市境上空写真(東から)

2 玉野市の紹介

玉野市は、岡山県の南端、児島半島の東部にあって瀬戸内海に面しており、北側は県都である岡山市と接し、西側は倉敷市に接していて南側は瀬戸内海を隔てて香川県高松市と対面した臨海都市です。

市域の60%が山地であり大きな河川もなく、地質は花崗岩地帯が64%と大きく占めています。気候は、暖かく雨が少ない典型的な瀬戸内気候で、台風等の自然災害もほとんどない恵まれた地域です。

本年は3年に1度開催される瀬戸内国際芸術祭の開催年で、本州から瀬戸内の島々への玄関口となっています。

3 玉野市消防団の概要

玉野市消防団は、昭和22年の消防団令交付により発足、その後、昭和29・30・31・49年に各町村消防団と合併し、現在は1本部18分団で構成されており、条例定数500名で団員数は令和7年4月1日(火)時点で449名在籍しています。車両は、指揮車1台、ポンプ自動車4台、小型動力ポンプ付積載車14台を保有しています。

「山火事の町玉野」と悪名があるくらい、玉野市は以前から大規模林野火災が多く発生しています。昭和49年には玉野市田井で408ha、昭和53年には玉野市永井で212ha、平成6年には玉野市渋川で258ha、平成7年には玉野市日比で231ha、平成23年には離島である玉野市

石島が香川県香川郡直島町井島から火災が発生し、225.5haを焼損しています。

玉野市消防団は大規模林野火災に対応するため、遠距離中継送水訓練を年2回、昭和60年からの長きにわたり実施しており、その功績を讃えられ、総務大臣表彰である令和6年度消防団地域貢献表彰を令和7年3月19日(水)に受賞しています。

4 林野火災の活動

今回の火災は、岡山市南区飽浦地内からの発生でしたので、玉野市側は、玉野市の住民から「金甲山方面の山から煙が出ている。」との通報により、管轄の消防署分署からポンプ車2台が出動しました。多量の煙を確認し、今回の火災は大規模林野火災となり、このままでは玉野市側も大きな被害になると判断し、早期に消防団は団本部及び9個分団を招集し、体制強化にとりかかりました。

火災発生当初の火災範囲は、岡山市の管轄分にありました。先着の署隊及び9個分団は天目山駐車場北側にある虎口池に可搬ポンプを設置し、ポンプ車へ中継送水、ホースを延長し玉野市管轄分に迫りつつある火を迎え撃つべく放水を開始しました。

天目山駐車場に現場指揮本部を設置し、増援体制を整え、消防職員、消防団員が一致団結して、夜を徹しての消火活動を展開しましたが、火勢は強く風もあり、延焼拡大していました。一時、現場指揮本部にも火が迫りましたが、玉野市管轄分への延焼を阻止するため、天目山駐車場にある100t地下水槽や西側の伍ヶ池にもポンプを部署し山の尾根を東西に通る県道へホースを延長していました。県道を防御ラインに設定し放水圧を落とさないよう、中継ポンプを入れ、各分団が連携し、遠距離中継送水体制による放水を行い、大部分は防ぎましたが、火の勢いは猛烈で、一部、県道を越えて南側の玉野市管轄分に延焼しました。



市境上空写真(南から)

3月24日(月)には全分団の招集を行い、前日に引き続き中継送水体制による消火活動を実施しました。

3月25日(火)には一時雨もありましたが、夕方になり強風が吹き、玉野市番田及び北方地区北側の山頂へ延焼拡大。燃え下がってると集落側にも広がる危険性がでてきたため、同地区に避難指示が発令されました。民家近くにある鉢立小学校に現場指揮本部を移し、山の中腹にある天目山駐車場に設置した現場指揮本部を天目山前進指揮所に変更、天目山側で活動する隊を縮小し、鉢立小学校現場指揮本部に集結させました。

また、避難指示が発令された地区へ避難実施の広報を実施しました。

3月26日(水)にかけて民家に近い箇所を中心に、予備的にホース延長を行い、山頂から燃え下がってくる火勢の防御及び飛び火などから民家を守る体制を確立させました。

消防・自衛隊ヘリの空中消火及び地上隊の消火活動により、火勢は収まり民家への延焼危険がなくなり、避難指示は解除されました。玉野市消防団の活動隊の規模を縮小し、警戒体制に入りました。3月27日(木)夜になり警戒隊も撤収。3月28日(金)12時00分に鎮圧宣言、火災発生から20日目の4月11日(金)12時00分に鎮火宣言されています。

【延べ出動人員】

玉野市消防本部	37台 273名
玉野市消防団	69台 754名
玉野消防使用ホース	約400本



火災の状況



天目山団員による放水



焼損範囲

出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp>)
加工：玉野市消防団にて編集



天目山～貝殻山付近ホース延長ライン
出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp>) 加工：玉野市消防団にて編集



北方・番田地区ホース延長ライン
出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp>) 加工：玉野市消防団にて編集



自衛隊によるヘリからの放水



消防団解散式(柴田市長)

5 おわりに

今回の火災は、隣接する市からの火災であり、消防職員同士は、消防学校での教育や通常の業務等で市が違っても顔の見える関係性を構築できていますが、消防団は市が違うと連携や情報共有ができるにくいという難点が浮き彫りになりました。今後は大規模災害等の対策を睨んで市をまたいでの消防団員同士の訓練等を実施する必要性を強く感じた火災でした。

少子高齢化により全国的にも消防団員数は減少の一途をたどり、玉野市消防団においても例外ではありません。

しかしながら、今回の大規模林野火災また、これから起こり得る南海トラフ地震等の災害は、そのような都合などまったく関係なく発生していきます。我々消防団は「自分たちの街は、自分たちで守る」を合言葉に、これからも地道に消防力の向上や防災対策に邁進していきたいと考えています。



共済事業交付車両の活用事例

三重県 尾鷲市消防団

(公財)日本消防協会では、日本宝くじ協会のご支援を得て、資機材を積載したワンボックスカー(消防団防災学習・災害活動車Ⅱ)を全国の消防団に交付しています。この車両は、防災訓練等への取組を支援するため、平時は地域住民、子どもたち、事業所等の防災学習や防災指導用として活用し、災害時には緊急車両として人員・資機材等の搬送に活用できるものです。

全国の消防団の中から、今回は尾鷲市消防団における交付車両の活用事例をご紹介します。

(公財)日本消防協会 福祉部

尾鷲市消防団では、毎年ゴールデンウィーク期間中に尾鷲市が主催する「ちびっこ防災フェア」に参加しております。このイベントは、未来の防災を担う子どもたちに防災への興味や関心を持ってもらうことを目的として、消防・警察・自衛隊など防災に関わる様々な機関が集まり、体験型のブースを通じて防災意識の啓発を行なうものです。

私たち尾鷲市消防団も、毎年この貴重な機会に参加し、地域の子どもたちやその保護者に対して防災について楽しく学べるブースを出展しております。特に昨年度は、防災学習・災害活動車Ⅱ型の交付を受けたことにより、例年に比べてより充実した内容で参加することができました。具体的には、「放水体験」と「AED体験」の2つの体験型ブースを設け、来場者の皆様に消防団の活動や防災技術について直接体験していただきました。

なかでもAED体験は、今回初めての取り組みであり、応急手当普及員の資格を持つ女性消防団員が中心となって指導にあたりました。普段は消防署や救急講習などに参加する機会が少ない子どもたちも、実際に自分の手で心肺蘇生法を体験することで、「疲れた!」「大変!」「またやりたい!」といった反応を見せるなど、非常に前向きな姿勢で参加してくれました。その様子から、子どもたちの防災意識の芽生えや、命を守る技術への関心が育まれていることを実感でき、大変意義深い体験となりました。

また、保護者の方々からも「私も体験してみたい」「実際にやってみると意外と簡単だった」といった声が多く寄せられ、大人の方にも強い関心を持っていただけたことが印象的でした。今回の体験に使用した心肺蘇生法の訓練用人



三重県防災キャラクターなまず博士と



放水体験



AED体験

形は、専用アプリをインストールすることで、胸骨圧迫の深さや速さをリアルタイムで確認できる機能があり、指導にあたった団員からも「このアプリがあれば、子どもにも視覚的に分かりやすく教えられる」「指導しやすいので、他の団員にも紹介したい」と好評を得ています。

さらに、防災学習資機材の一環として納品された「煙体験ハウス(ワンタッチ式)」も、市内の小学校や自主防災組織の防災訓練で積極的に活用されております。これまで組み立て式の煙体験設備を使用しており、準備に多くの人手や時間を要していたため、運用面での負担が課題でした。しかし、ワンタッチ式の設備が導入されたことで、設営や撤収が格段に簡素化され、消防職員や団員の負担軽減にもつながっております。

尾鷲市は三重県の南部に位置し、県庁所在地である津市までの移動にはおよそ1時間から1時間30分を要します。また、尾鷲市消防団では大人数を一度に運搬できる車両を保有していなかったため、これまで各種研修会や交流会、さらには消防学校への参加も個人の自家用車などの移動に依存しており、移動の負担から参加率の低下が課題となっていました。

とりわけ、消防学校で実施される各種教育は、地域防災力の向上にとって非常に重要な学びの機会であり、できる限り多くの団員に受講してもらいたい内容です。今後は、交付された防災学習・災害活動車Ⅱ型を有効に活用することで、団員の移動負担を軽減しながら、より多くの人材が教育の場に参加できるよう働きかけてまいります。消防団としての能力向上、そして地域全体の防災力強化につなげていきたいと考えております。





ペルー共和国への「消防車両等国際援助事業」 大統領が参列し援助車両を引渡し

(公財)日本消防協会 国際部

令和7年8月7日(木)、来日中のディナ・ボルアルテ ペルー共和国大統領及び当協会秋本会長の出席の下、東京都渋谷区の同國大使館において、援助車両(10台)の引き渡し式を行いました。

ボルアルテ大統領からは、長年にわたる車両寄贈に対し、深い感謝の意が示されるとともに、日本、ペルー両国の消防関係者の献身的で勇敢な姿勢を称賛する言葉が述べられました。これに対し、秋本会長は、ペルーに対する長年の協力は、同國の方々が眞に消防車両を必要とし、その気持ちが行動へと繋がり、消防車両を確保するための様々な努力を一生懸命にされた結果だと述べた後、今回10台の車両を寄贈する旨の証明書を大統領に手交しました。

この事業は、昭和59年度に事業開始し、国内の消防機関等から更新車両の提供を受け、それらを開発途上国に無償で援助し、消防力の向上や日本の国際貢献に寄与しております。

昨年度末までに46か国1,798台の援助実績を重ね、平成28年度からは外務省のODA資金を活用し、海外での技術援助も行っています。

援助車両及び車両提供元機関

東京都	稻城市	消防ポンプ自動車	4台
神奈川県	大和市消防本部	高規格救急自動車	1台
栃木県	宇都宮市消防局	小型動力ポンプ積載型消防自動車	2台
岐阜県	大垣消防組合消防本部	指揮車	1台
	多治見市消防本部	消防ポンプ自動車	1台
		高規格救急自動車	1台



寄贈車両のパネル展示



(写真右)ペルー共和国大統領
ディナ・ボルアルテ氏

(公財)日本消防協会 国際部
電話:03-6263-9528

Women's Fire Contest 2025

第26回全国女性消防操法大会

オリジナル記念Tシャツ

ピンク

ネイビー



Design

バックプリントに、横浜各地の
ランドマークと操法に関する
イラストを配置。凛々しさと華
やかさを表現したTシャツに
仕上げました。

ご注文受付期間

2025年

11月3日(月)まで

締め切り後1ヶ月程度でお届け

※発送スケジュールは、
オンラインショップをご確認ください。

送料について

ご注文金額が10,000円以上で送料無料。※ご注文金額が10,000円未満の場合、送料770円(税込)「※北海道、沖縄、離島は1,320円(税込)」が発生いたします。
※配送先が複数台所の場合、配送先2台所目以降、1台所につき送料770円(税込)「※北海道、沖縄、離島は1,320円(税込)」が発生いたします。※お支払方法に「代金引換」を選択された場合、代引手数料400円(税込)が発生いたします。

ウェアの特徴

裏面がメッシュ構造になっており、
抜群の通気性と吸水速乾性を持ち、
汗冷えを防ぐとともに、肌離れも
よく、快適な着心地が持続します。

表面



裏面



■サイズ表

	S	M	L	LL	3L
身丈	65	68	71	74	77
身幅	47	50	53	56	60
肩幅	44	46	48	50	53
袖丈	20	21	22	23	25

| 第26回全国女性消防操法
大会記念Tシャツ

[カラー] ピンク、ネイビー
[サイズ] S、M、L、LL、3L
[素材] ポリエステル100%

2,200円(税込)

お問い合わせ

(公財)日本消防協会 総務部 TEL03-6263-9497

ご注文は  株式会社シグナル

△下記URLまたはQRコードからアクセス△

https://www.signalos.co.jp/web/zenkoku_sohou2025/





がんばる消防団の味方

『全国消防団応援の店』へ行ってみよう!

～長野・富山編～

(公財)日本消防協会 福祉部



登録店舗リスト

- 食事
- 買い物
- 美容
- 旅行
- 博物館
- スポーツ
- ガソリンスタンドなど



利用したい『全国消防団応援の店』を見つけてね☆

●長野県・富山県の登録店舗をご紹介します！

今回ご紹介するのは、長野県上田市の1店舗・富山県射水市の4店舗です。

長野県東部に位置する上田市は、市の中央を日本最長の千曲川が流れ、北に菅平高原、南に美ヶ原高原など雄大な自然環境に恵まれた地域です。歴史的には、戦国時代に全国に名を馳せた真田氏発祥の地としても知られています。歴史ある神社仏閣、温泉地やワイナリーなどの観光資源も多く観光地として魅力的です！

富山県射水市の魅力は、新鮮で豊かな「食」、日本のベニスと称される水辺の景観「水」、そして市民参加型で伝統ある「祭り」の3つのポイントに集約されています。特に、富山県を代表する魚介が水揚げされる新湊漁港を有し、新鮮な海の幸を味わうことができて、全国的に珍しい「昼セリ」を見学することもできます！

是非とも全国の消防団員さんに積極的に店舗をご利用いただきたいと思います！

～長野県～



ザイデンシュトラーセン

UEDA city



●住所・連絡先

長野県上田市中丸子 1623-1 電話 : 0268-42-6673

InstagramのDM

●サービス内容

飲食合計金額の 10% off ※他の割引との併用は対象外となります。

●登録のきっかけ

上田市消防団の音楽隊に娘が入団し、長野県が行っている「信州消防団員応援ショップ事業」の消防団員カードをもらってきたことから日常の生活をしながら地域の安全にご尽力されている消防団の皆様のことを知りました。自分も何か協力したいと思い、県内では初の「全国消防団応援の店登録店」となりました。

●おすすめ・アピールポイント

当店の珈琲カレーはお水の代わりにハンドドリップで淹れた淹れたての珈琲のみで仕立てているカレーです。チーズと卵をのせて焼き上げた「焼きチーズ珈琲カレー」が1番人気です。3分づきのお米を珈琲で炊き上げた苦みと旨味を味わえる「これでもか！珈琲カレー」もおすすめです。ドリンクの中でもお茶は、紅茶・ブレンドハーブティー・ストレート花茶・フラワーフルーツロシアンティー等各種取り揃えております。ガツンと強めなアイス珈琲もおすすめです。お食事・デザート・お飲み物と忘れられない味を目指しています。

主催のハッピーマルシェは、地元丸子第三分団の皆様を筆頭に、消防団の皆様にご参加ご協力を賜り、防火防災活動と共にお世話になっております。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



@SEIDENSTRASSEN



～富山県～



野村屋



IMIZU city

●住所・連絡先

富山県射水市本町 3-6-4

電話 : 0766-82-3637

●サービス内容

1,000円以上購入で季節の商品サービス

●登録のきっかけ

自身も消防団員であり、消防団応援の店について声がかかった際には二つ返事で了承しました。消防団活動をしている方を食を通じて応援したいと思い登録しました。

●おすすめ・アピールポイント

富山名物ブラックラーメンをイメージしたコクのある醤油バター味の「富山ブラックどらやき」がおすすめです。

素朴な餅菓子や伝統的な和菓子、遊び心を加えたスイーツまで、3代目店主野村さんが「自分が食べたい」と思うものを開発し、厳選した材料を使ってひとつひとつ手作りしています。



HP



@NOMURAYA.SHINMINATOWAGASHI

「日本のベニス」と呼ばれる内川のすぐそばにあるお店なので、散策しながらぜひ当店に足を運んでください。



丸屋

IMIZU city

●住所・連絡先

富山県射水市立町 3-15

電話 : 0766-84-6123

●サービス内容

ワンドリンクサービス
(消防団員さんを含むグループ全体)

●登録のきっかけ

自身も消防団員で、消防団にはお世話になっている先輩や後輩が大勢所属しているので、何か自分に出来ることで役に立ちたいと思い、消防団応援の店に登録しました。

●おすすめ・アピールポイント

紅ズワイガニや甘えび、バイ貝、ブリや氷見マグロなど旬な食材・地物の魚・野菜などを使用した料理がおすすめです。メニューはなくその日仕入れた新鮮な魚介で料理を考え、コースで料理を提供します。四季によって採れる魚介や食材も変わってくるため、訪れた時期の旬のものを味わってください。

立山連峰を眺められる新湊大橋や海王丸、内川沿いの散策などを観光していただき、その足でぜひお店に来ていただければ富山の旬の魚介を使ったおいしい料理を提供します。毎年10月には新湊曳山祭りが開催されるのでぜひ皆さん来てください。

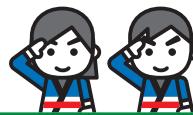


HP



@MARUYA846123

日本消防 2025.9 26



小杉スポーツ

IMIZU city



●住所・連絡先

富山県射水市三ヶ 1038 電話：0766-55-1331

●サービス内容

各種割引(現金支払いに限る) ※一部対象外あり

●登録のきっかけ

火災だけではなく自然災害が発生した際、地元地域のために懸命に活動されることに対し、弊社でも少しでもご協力できることがあればと思い登録しました。

●おすすめ・アピールポイント

多種多様なウェア、シューズ、トレーニング用品、サプリメント、身体のケア用品等を取り扱っているため、団員の方にあつたご提案ができるかと思いますのでご相談ください。また、ポンプ操法等で使用された商品のご意見をメーカーへ直接フィードバックして商品開発の提案をしています。

経営する小杉パークゴルフクラブでは体を動かしながら家族や友人と仲を深めることができ、宿泊施設は天然温泉なので身体の疲れを癒せます。

団員さん、ご家族でグリーンシーズンはパークゴルフを、冬はウィンタース

ポーツを楽しんで、弊社温泉宿泊施設でゆっくりお過ごしいただき、家族・仲間のコミュニケーションの場としてご利用ください。



松原屋

IMIZU city



●住所・連絡先

富山県射水市三ヶ 3971-1 電話：0766-55-0034

●サービス内容

電話予約時に団員と伝えるとサービスあり



HP

●登録のきっかけ

明治30年ごろからこの地に旅館を構え、古くから地元の方に利用してもらい、近所には消防団員さんが住み、たくさんのつながりがあるなかで消防団応援の店登録のお話をいただき、協力できることがあるならと思い登録しました。

●おすすめ・アピールポイント

大きな町である富山市と高岡市の真ん中にある射水市は観光の拠点として最適な場所です。当旅館は、あいの風とやま鉄道「小杉駅」より徒歩1分、北陸自動車道 小杉インターチェンジより車で9分の好アクセスで便利な立地に位置している旅館です。

普段から会合や懇親会でご利用していただく機会が多いので、宴席の料理には皆さんに美味しいと新鮮なものを提供できるよう気を配っています。

射水市小杉エリアでは、獅子舞などの地域行事がたくさんあり、季節ごとの

イベントで地元一体となって盛り上がっています。ドライブコースも充実しておりますので、富山の美味しい魚とお酒を楽しみ、射水市に遊びに来た際は是非ご利用下さい。



第53回全国消防救助技術大会

(一財)全国消防協会

1 はじめに

一般財団法人全国消防協会では、令和7年8月30日(土)に、神戸市消防局主管により兵庫県三木市(兵庫県立広域防災センター)において、第53回全国消防救助技術大会を開催しました。

この大会は、救助技術の高度化に必要な基本的要素の練磨を通じて、消防救助活動に不可欠な体力、精神力、技術力を養うとともに、全国の消防救助隊員が一堂に会し、競い、学ぶことを通じて、他の模範となる消防救助隊員を育成し、全国市民の消防に寄せる期待に力強く応えることを目的として毎年開催しています。

兵庫県神戸市は、30年前に阪神・淡路大震災を経験し、ともに支え合い、多くの困難を乗り越えて「絆」を紡いてきました。この「絆」から、さまざまなものが生まれ、作られ、育まれ、今も脈々と繋がり続けています。

『震災30年で培った「絆」と、この大会で新たに紡がれる「絆」がつながり、これらが復興から新たなステージへ、そして次なる発展に向けての勇気と力になっていくことを願っている。』という想いが、「Go Forward More ~「絆」とともに~」という大会スローガンに込められています。



(一財)全国消防協会 市川会長



(公財)日本消防協会 秋本会長



選手宣誓：神戸市消防局 近藤隊員

2 大会を振り返って

大会当日は好天に恵まれ暑さ厳しい中、開会式は、午前9時から兵庫県立広域防災センターで行われ、全国9地区支部から選抜された出場隊員が入場し、栗岡神戸市消防局長の開会宣言により第53回全国消防救助技術大会が開幕しました。

続いて、消防殉職者に対する黙とう、国旗・大会旗の掲揚後、一般財団法人全国消防協会の市川会長が挨拶されました。ご来賓からは、大沢消防庁長官、秋本公益財団法人日本消防協会会长、齋藤兵庫県知事よりご祝辞をいただきました。その後、大会審判長である岸本北九州市消防局長の審判長指示を受け、神戸市消防局の近藤隊員が出場隊員915名を代表して隊員宣誓を行うと、いよいよ本番という雰囲気が広がり、気温の上昇と選手たちの高揚感が相まって、会場は熱気に包まれました。

陸上・水上の部、各7種目、計14の訓練種目では、全国から選抜された救助の精銳が磨き抜かれた救助技術を存分に披露しました。



障害突破



ロープブリッジ渡過



ほふく救出



陸上の部技術訓練：東播・播但ブロック混成チーム①



陸上の部技術訓練：東播・播但ブロック混成チーム②

技術訓練では、陸上会場では兵庫県下の消防本部で作られた「救助作業部会」から東播・播但ブロック混成チームが「誰一人取り残さない救助」の訓練を、水上会場では徳島市消防局が潜水経験の浅い隊員であっても、ロープ合図と資機材を活用した二重の安全管理を徹底し、事故を未然に防ぐ訓練をそれぞれ披露しました。その後、第54回全国消防救助技術大会から実施される新障害突破のデモンストレーションも実施され、参加隊員は、趣向を凝らした訓練想定と高度な救助技術を細部にわたるまで吸収しようと、真剣なまなざして訓練を見学していました。

会場内に設けられたイベントエリアでは、特殊消防車両の展示や地震体験車、VRゴーグルやARゴーグルを使った災害疑似体験など、さまざまなコーナーやイベントが用意されており、大人から子どもまで大勢の方々で賑わいました。

大会は予定どおり進行し、陸上の部・水上の部ともに全国から選ばれた隊員たちの日頃の訓練成果が惜しみなく発揮されました。会場を埋め尽くした見学者は、隊員たちが訓練に取り組む姿に見入り、客席からは歓声と応援の拍手が鳴り止みませんでした。

全ての訓練種目終了後、大会会場において閉会式が行われました。

はじめに、各訓練代表受賞者への表彰が行われ、市川大会会長から表彰状が手渡されました。市川大会会長の講評後、国旗・大会旗の降納に続き、大会旗の引き継ぎが行われ、栗岡神戸市消防局長から次期開催主管消防本部の阿部新潟市消防局長へ大会旗が手渡されました。

引き継ぎを受けた阿部新潟市消防局長から「栗岡神戸市消防局長から大会旗の引き継ぎをさせていただきました。長い大会の歴史の中で、新潟県新潟市での開催は初めてのことです。新潟市は、大河の信濃川が市内を流れ、日本海に注ぐ美しい水辺都市であり、新潟の代名詞となるお米や日



水中捜索



溺者救助



複合検索



水上の部技術訓練：徳島市消防局①



水上の部技術訓練：徳島市消防局②



大会旗→神戸市消防局長から新潟市消防局長

本酒が楽しめるだけでなく、海の幸も豊富です。また、新潟駅から都心エリアをつなぐ沿線地域は、「にいがた2 km」と称し、人・モノ・情報の中心拠点となる魅力ある都心づくりをコンセプトに新たな街づくりを推進しております。来年は、是非とも豊かな自然と食文化が共存する新潟の魅力を存分に感じていただき、楽しんでいただけるよう、職員一丸となってお迎えしたいと存じます。」と第54回全国消防救助技術大会開催に向けた決意を述べられました。

最後に、栗岡神戸市消防局長の閉会宣言により、第53回全国消防救助技術大会は閉幕となりました。

3 終わりに

暑さが厳しい中ではありましたが、多くのご来賓と市民の皆様など、延べ約10,000の方々にご来場をいただき、大会を終えることができました。

本大会の開催に際しまして、多大なるご支援、ご尽力を頂きました開催主管消防本部である神戸市消防局をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げますとともに、将来の隊員の育成にも引き続きのご理解ご協力をお願い申し上げます。

消防団の組織概要等に関する調査 (令和7年度)の結果

総務省消防庁 地域防災室

総務省消防庁では、全国の市区町村を対象に、令和7年4月1日現在の消防団の組織概要等に関する調査を行い、とりまとめましたので公表します。

上記調査の結果、消防団員数は約73万2千人(対前年比約▲1万4千人)と、依然として減少しております。

一方で、重点的に取り組んできた女性団員、学生団員及び機能別団員については継続して増加しており、消防団員の処遇改善に係る対応状況については、年額報酬、出動報酬及び各報酬の支給方法について基準を満たす市区町村が92%を超え、着実に改善が進んでおります。

総務省消防庁では、こうした状況を踏まえ、引き続き、消防団員の確保に向け、広報の充実や処遇改善を更に推進するとともに、女性団員が活動しやすい環境づくり等を通じた各地域の優良事例の横展開など、消防団の更なる充実に向けた取組を進めてまいります。

- 調査対象 全国の市区町村(消防団事務を実施している消防本部、一部事務組合を含む。)
- 調査時点 令和7年4月1日現在
- 調査結果 消防団の組織概要等に関する調査結果(概要)

資料の入手方法

総務省ホームページ(<https://www.soumu.go.jp/>)の「報道資料」欄及び消防庁ホームページ(<https://www.fdma.go.jp/>)の「報道発表」欄に掲載。



総務省ホームページ
「報道資料」



消防庁ホームページ
「報道発表」

【連絡先】

消防庁国民保護・防災部地域防災室 有村課長補佐、山下係長、青山事務官、菊川事務官

TEL : 03-5253-7561 E-mail : syobodan/atmark/ml.soumu.go.jp

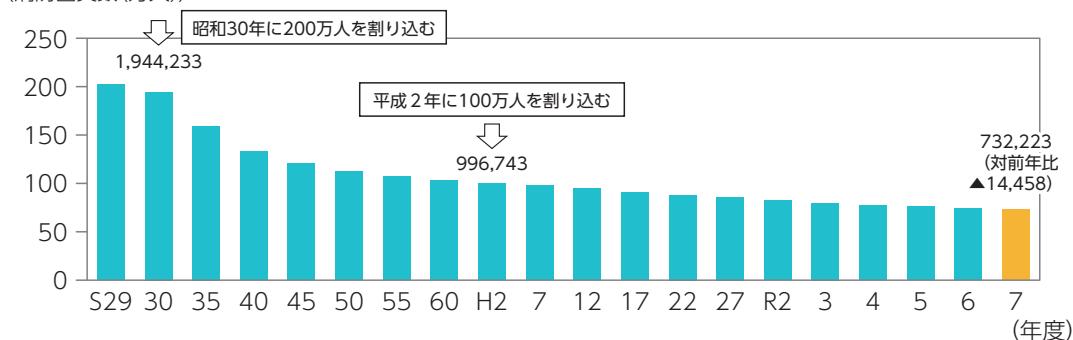
※迷惑メール防止のため、「@」を「/atmark/」と表示しておりますので、送信の際は、「@」に置き換えてください。

消防団の組織概要等に関する調査の結果(令和7年度)

- R7.4.1時点の消防団員数は732,223人(▲14,458人(▲1.9%)) 入団者数:37,757人、
退団者数:52,215人)
- 重点的に取り組んできた女性団員、学生団員及び機能別団員については増加傾向
 - 女性団員 29,478人(+883人(+3.1%))
※女性団員がいる消防団数は1,775団(+29団)
 - 学生団員 7,568人(+446人(+6.3%))
※学生団員がいる消防団数は896団(+34団)
 - 機能別団員 40,195人(+2,615人(+7.0%))
※機能別団員(分団)制度は803市区町村で導入済(+53市町村)

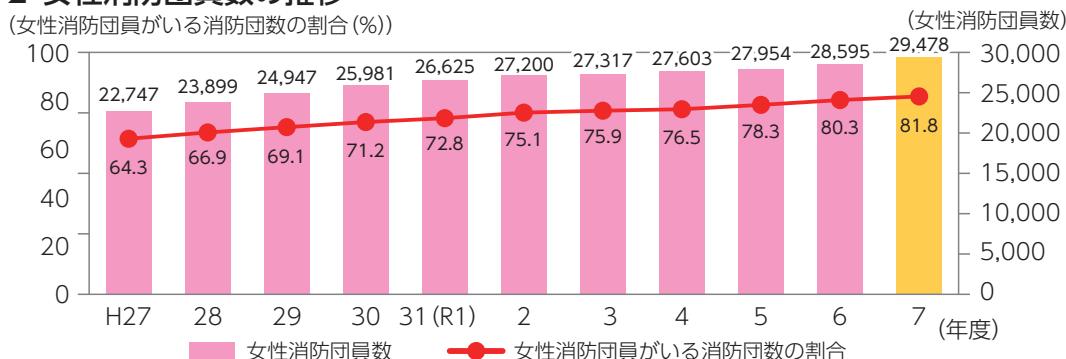
1 消防団員数の推移

(消防団員数(万人))



2 女性消防団員数の推移

(女性消防団員がいる消防団数の割合(%))



3 学生消防団員数の推移

(学生消防団活動認証制度導入市区町村数)



4 機能別消防団員数の推移

(導入市区町村数)

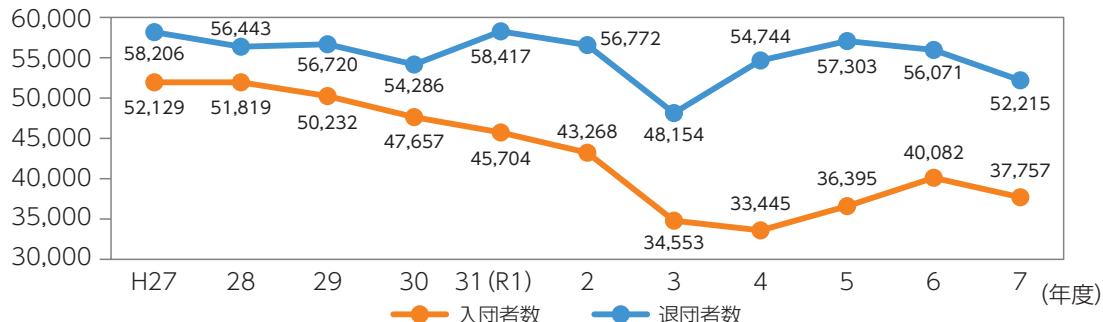


●消防団員数は依然として減少傾向にあるものの、退団者数は2年連続の減少となった。(下図①)

●年齢階層別に消防団員数を見ると、若年層の団員構成率が減少しており、30代以下は4割弱程度(33.5%)にとどまる。(下図②)

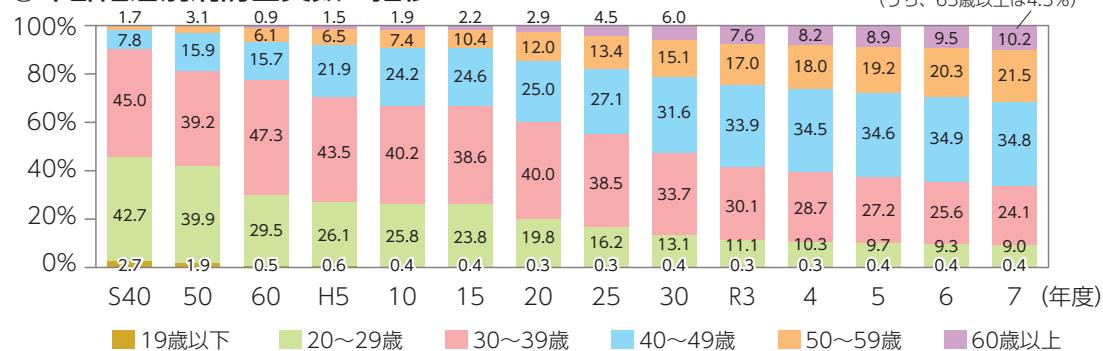
①入団者数及び退団者数の推移

(団員数(人))



②年齢階層別消防団員数の推移

(うち、65歳以上は4.5%)

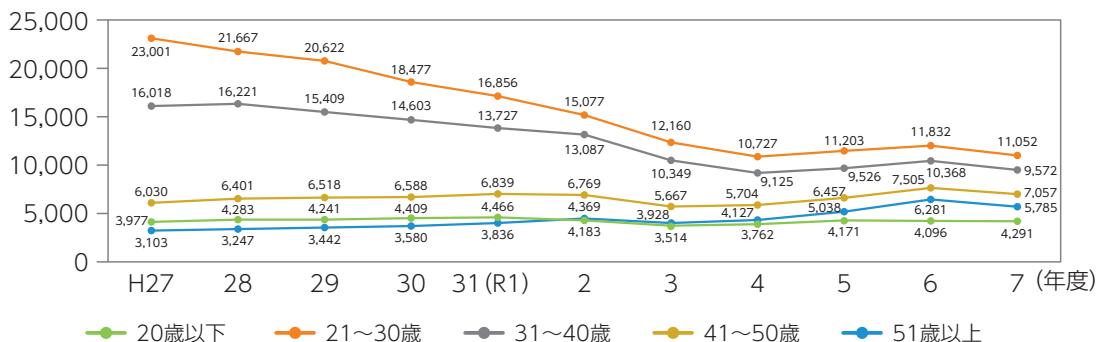


●各年齢階層別の入団者数はここ数年、一定の水準で推移。

●特に、若年層(20歳代、30歳代)の入団者数減少も下げ止まりの傾向。

年齢階層別入団者数の推移

(団員数(人))



熱中症による救急搬送の状況及び 予防啓発の取組について

総務省消防庁 救急企画室

1 はじめに

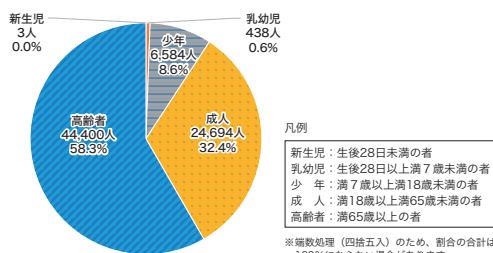
消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っています。令和7年は記録的な暑さが続き、5月1日から8月17日までに76,119人（※速報値）の方が熱中症で救急搬送されており、6月が過去最多、7月が過去3番目の搬送人員となるなど、調査開始以降最多となつた令和6年同様、厳しい状況となっています。今回は、熱中症による救急搬送の状況等について詳しくご説明します。

2 热中症による救急搬送状況

① 年齢区分別の救急搬送人員(図1)

5月1日から8月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、高齢者が44,400人（58.3%）と最も多く、次いで成人24,694人（32.4%）、少年6,584人（8.6%）などとなっています。約6割を占める高齢者は、暑さやのどの渴きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

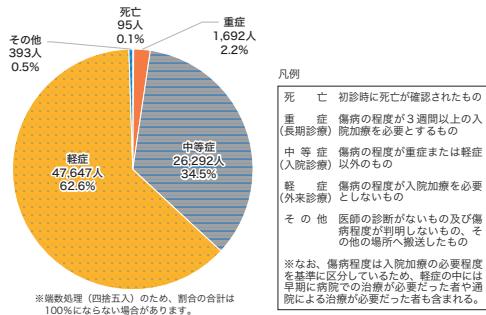
図1 年齢区分別(構成比)
令和7年 総搬送人員76,119人



② 傷病程度別の救急搬送人員(図2)

5月1日から8月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、軽症が47,647人（62.6%）と最も多く、次いで中等症26,292人（34.5%）、重症1,692人（2.2%）、死亡95人（0.1%）などとなっており、入院が必要となる中等症以上と診断された搬送人員が約4割を占めています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

図2 初診時における傷病程度別
令和7年 総搬送人員76,119人



③ 発生場所別の救急搬送人員(図3)

5月1日から8月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、住居が30,169人（39.6%）と最も多く、次いで道路14,912人（19.6%）、公衆（屋外）8,909人（11.7%）、仕事場①7,426人（9.8%）、公衆（屋内）6,493人（8.5%）などとなっています。

図3 発生場所別(構成比)
令和7年 総搬送人員 76,119人

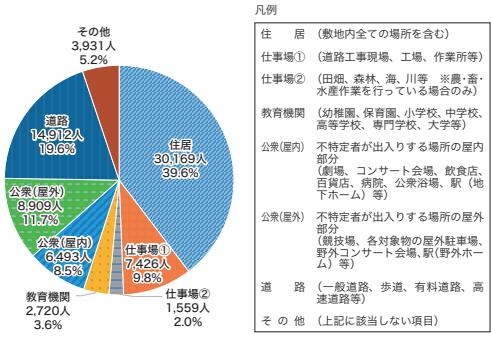


図4 都道府県別熱中症による救急搬送人員
前年同期との比較(累計: 5月1日～8月17日)

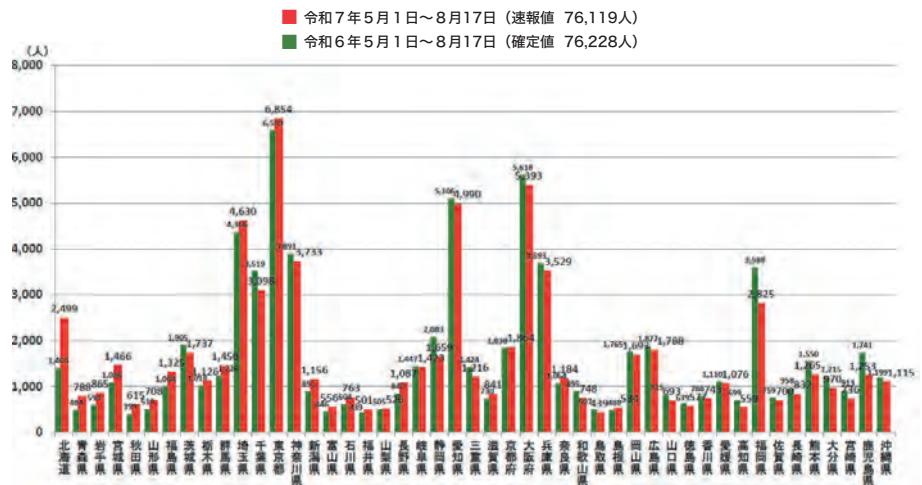
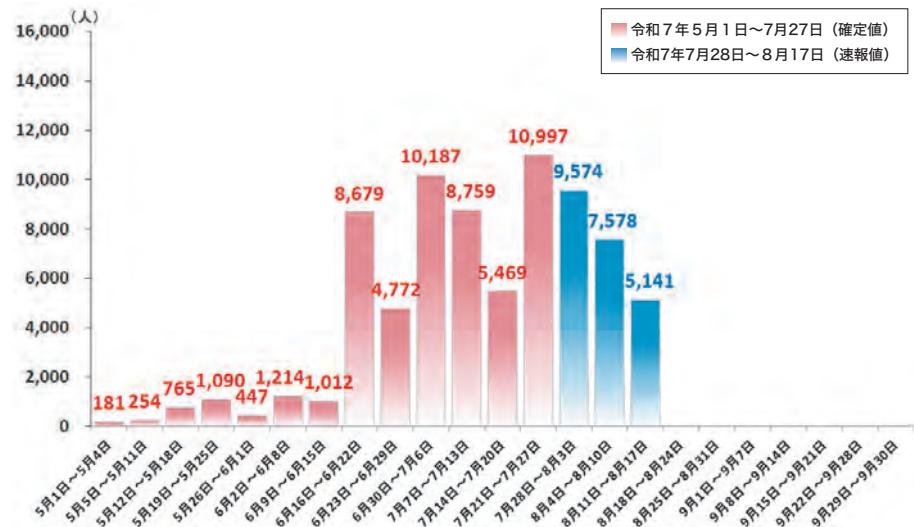


図5 热中症による救急搬送人員(週別推移)



④ 都道府県別の救急搬送人員(図4)

5月1日から8月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、東京都が6,854人と最も多く、次いで大阪府5,393人、愛知県4,990人、埼玉県4,630人、神奈川県3,733人となっています。

⑤ 週別の救急搬送人員(図5)

週別の救急搬送人員は、6月中旬までは200～1,200人前後で推移していましたが、6月中旬以降急増し、特に6月30日の週及び7月21日の週は10,000人以上となっています。

3 消防庁における熱中症予防啓発の取組

消防庁では、全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防啓発ポスター・ビデオ・イラスト、熱中症対策リーフレット、全国の消防本部が独自で行っている熱中症予防啓発の取組をまとめた熱中症予防啓発取組事例集等の予防啓発用コンテンツをホームページに掲載しているほか、X(旧Twitter)でも熱中症の予防について発信しています。

また、「熱中症予防強化キャンペーン」として、関係府省庁や官民連携の下、時季に応じた適切な熱中症予防行動の呼びかけを行うとともに、狙いを絞った効果的な普及啓発や注意喚起等の広報活動を実施しています。



【ポスター】



【消防庁Xでの広報】

4 熱中症予防のポイント

東京都のデータでは、お亡くなりになられた方の8割以上が高齢者で、また、8割以上がエアコンを使っていなかったというデータがあります。こうした点を踏まえて、熱中症を予防するために、改めて以下の項目を心がけて下さい。

- ・喉の渴きを感じる前のことめな水分補給や適切な塩分補給
- ・室内の温湿度をこまめに測るとともに、エアコン・扇風機をためらわずに使う
(エアコンが使用できないときは、涼しい服装に着替え、濡れたタオル等を肌に当て、うちわであおぐと熱が放散される)
- ・屋外の作業ではこまめに休憩をとる
- ・熱中症警戒アラートが発表されるような日は、外出ができるだけ控え暑さを避ける

5 おわりに

多くの方が病院に運ばれたり、亡くなったりする、熱中症を引き起こす猛暑は、もはや「災害」といっても過言ではありません。屋内外や昼夜を問わず、ご自身の命を守るために、周囲の人や離れて暮らすご家族等への呼びかけも重要です。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めています。

【参考】消防庁熱中症情報

<https://www.fdma.go.jp/disaster#anchor-07>
※ 熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています

【参考】熱中症予防情報サイト

普及啓発資料(環境省)

https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

問合せ先

消防庁救急企画室 竹田、松田、三宅
TEL: 03-5253-7529



大規模土砂災害時における 救助能力の高度化について

総務省消防庁 国民保護・防災部 参事官

1 検討の目的

土砂災害の救助活動要領については、平成26年度の検討会で体系的に取りまとめられ、令和元年度に、具体的かつ実践的な救助活動要領に見直されているところであるが、近年、国内においては、令和3年静岡県熱海市土石流災害をはじめ、令和6年能登半島地震では地震による大規模な土砂崩落が発生し、甚大な被害とともに多くの人命や財産が犠牲となった。今後も発生が予想される大規模土砂災害においては、活動が広範囲にわたることや二次災害の発生危険もあり、大きな困難性が伴う中で、消防機関には安全管理の徹底と迅速な救命活動が求められている。

そのため、近年の土砂災害における教訓や最新の知見や先進的な活動技術等を踏まえて、大規模土砂災害の対応にあたる消防隊員等がより安全・確実・迅速に救助するための手法、教育訓練、関係機関との連携について、有識者等からなる検討会を開催し、実践的かつより消防職員に浸透させるための見える化を図る検討を実施した。

2 検討の体制、検討事項等

(1) 大規模土砂災害の救助活動に係る主な検討事項について、近年に発生した土砂災害における経験、教訓の蓄積や新たな知見、先進的な活動技術等を踏まえて、具体的かつ実践的に検討するため、土砂災害に係る各専門分野における有識者委員、消防本部委員、さらにはオブザーバーとして実動部隊を保有する防衛省、警察庁、国土交通省や消防大学校、消防研究センターなどの方々で構成する検討会を計4回開催した。

<開催実績>

- 第1回 令和6年7月31日
- 第2回 令和6年10月1日
- 第3回 令和6年12月2日
- 第4回 令和7年2月26日

※すべて対面及びwebによるハイブリッド形式で開催

	氏名	所属・役職等
有識者委員	岩男 忠明	国土交通省 水管理・国土保全局 水防部保全課 土砂災害対応室長
	長田 亜弥	一般社団法人 日本建築構造技術者協会 株式会社東急設計コンサルタント所属 (国際緊急援助隊救助チーム技術検討員)
	海堀 正博	広島大学 防災・減災研究センター長
	笹井 美青	北海道大学 農学研究院 基盤研究部門 森林科学分野教授
	小林 恭一◎	危険物保安技術協会 特別顧問 (元東京理科大学 総合研究院教授)
	玉手 聰	独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 労働災害調査分析センター長
	西村 博英	一般社団法人 全国建設業協会 総合企画専門委員会 委員 (宮城県建設業協会専務理事)
消防機関等委員	吉田 悅教	千葉経済大学経済学部 特任教授
	石原 新一郎	名古屋市消防局 本部機動部隊長
	川村 亮太郎	東京消防庁 警防部 救助課長
	川本 春樹	広島市消防局 警防部 警防課 消防機動担当課長
	喜多 光晴	京都市消防局 警防部 警防課長
	田中 智也	大阪市消防局 警防部 司令課 東方面隊長
オブザーバー	國本 哲	全国消防長会 事業部 事業企画課長
	荒川 智哉	防衛省 統合幕僚監部 参事官付 災害派遣・国民保護班 班長補佐
オブザーバー	山下 大輔	警察庁 警備局 警備運用部 警備第三課 災害対策室 課長補佐
	川嶋 浩一	国土交通省 水管理・国土保全局 防災課 災害対策室 課長補佐
	消防庁	消防・救急課、国民保護・防災部防災課 広域応援室、消防大学校、消防研究センター

◎：座長

(2) 検討にあたり、各有識者からは、近年における土砂災害の現況、土砂災害における活動状況、革新的な技術研究などの報告をいただくとともに、その専門分野における動向や課題事項等に係るご意見や、救助活動技術の充実及び「見える化」を図るために、消防機関や専門家等からなる「個別検証チーム」による個別技術検証を行うことで、より実践的かつ具体的な検討を実施した。

- (3) 検討会に先立ち、全国の720消防本部に対し、土砂災害への対応における消防機関の課題、土砂災害に対応するための活動要領等の整備、他機関との連携状況、課題を解決するための方法や要望などの実態調査を行った。また、現行の「土砂災害時における消防機関の救助活動要領」の記載内容を充実強化するとともに、見える化を図るために土砂災害活動の流れ、安全監視、関係機関との連携、救助・検索活動、活動経験等の補完を主に検討を行った。
- (4) 報告書をまとめ、現行要領を見直し、新たに最新かつより実戦的な「土砂災害時における消防機関の救助活動マニュアル」(以下「マニュアル」という。)として取りまとめた。

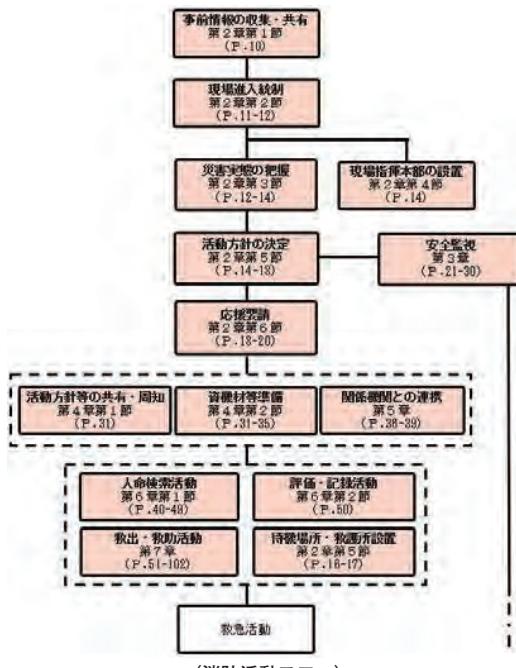
③ マニュアルの主なポイント

(1) より実戦的な活動手順へ

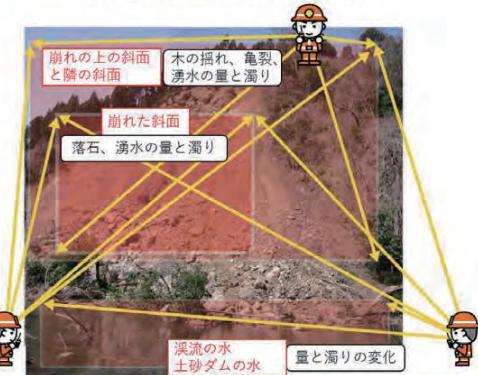
活動の迅速化を図るため、災害の覚知から救助活動までを時系列で記載し、土砂災害の標準活動のための消防活動フローを策定し、掲載した。

(2) より安全な活動へ

安全を考慮した災害現場への進入方法等を明確化するとともに危険現象の監視方法及び安全監視員の配置例を示した。また、危険な土砂移動の過去例を追加した。



安全監視員の配置例 長さ50m規模



(安全監視員の配置例)

(3) より効率的な活動へ

関係機関等の早期応援要請を図ることや一貫した活動のための方法を追加した。



(マーキング例)

サイト管理シート A				
始点	經度	135.4737227	緯度	34.6704326
終点	經度	135.4739026	緯度	34.6706107
検索開始日	12月27日	エリア面積	20m×20m	
検索方法	表記	距離	3m	完全検索
【関係者からの情報】				
○○方向に男性1名がいて、倒されたのを見た。 (○○の方の位置は、サトA 現地で確認)				
【情報提供者】オオサカ タコウ(夫) 090-1234-5678 取扱日:12月27日				
【その他】土砂堆積量 約6m 家庭の上方に約1tの岩が複数あり				
【付近平面図】				
【対応履歴・期間】				
大取内閣				
12月27日～12月31日				

(管理シート)

(4) 実災害の課題改善へ

関係機関等の早期応援要請を図ることや一貫した活動のための方法を追加した。



(各種検証)

(5) 活動の見える化

土砂災害活動に対する理解力を高めるため、写真、図に加えて、動画を多岐にわたり掲載した。また、実災害を用いた例示や災害事例を追加し、過去の教訓等を学べるようにした。

4 おわりに

今回のマニュアルを各消防本部において、活動要領、マニュアル等の策定、または更新に積極的に活用していただき、土砂災害に対する救助現場の活動の一助となることを期待します。

○令和6年度 救助技術の高度化等検討会

(大規模土砂災害時における救助能力の高度化)

(https://www.fdma.go.jp/singi_kento/kento/post-163.html)



問合せ先

消防庁国民保護・防災部 参事官付救助係
大月補佐、田中係長、澤田事務官、井上事務官
TEL : 03-5253-7507

住民自らによる災害の備え

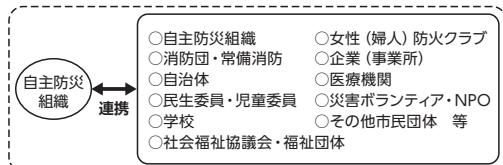
総務省消防庁 地域防災室

近年、気候変動の影響等により、既存の想定を上回る災害が多く発生しており、いつ起きてもおかしくないとされる南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模地震の切迫性に加えて、集中豪雨や雪害といった過去の災害教訓を踏まえると、行政による対応のみでは被災者の救助や消火活動等に限界があるため、住民自身・相互の活動体制をいかに整えるかが課題となっています。

そこで、「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成された組織が自主防災組織です。平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災を契機にその重要性が見直され、各地で組織の結成・育成が積極的に取り組まれています(令和6年4月1日現在、16万7,233団体)。自主防災組織は、平常時には防災訓練の実施、防災知識の普及啓発、災害危険箇所の点検、資機材の購入・点検等を行うとともに、災害時には初期消火、避難誘導、負傷者等の救出・救護、情報の収集・伝達、給食・給水、災害危険箇所の巡回等を行います。

連携による活動の活性化

地域の安心安全を守るために活動している自主防災組織が、地域の垣根を超えて互いに連携し、また、消防団、学校、企業など地域の様々な防災活動団体と連携し、お互いの得意分野を活かして補完し合うことで、地域の防災力をより高めることができます(図参照)。



他団体との連携によるメリット

- 人材が増え、また保有資機材等も豊富になる。
- 活動の範囲が広がり、広域的に事業を実施することができる。
- 活動の種類やメニューが増え、活発な活動を継続して実施することができる。
- 様々な機会を通じた地域住民へのPRが可能となる。

(図) 様々な地域活動団体との連携とそのメリット

ここでは、「第29回防災まちづくり大賞」において、消防庁長官賞を受賞された鳥取県米子市の三柳団地2区自主防災会の取組を紹介します。

取組の背景

三柳団地2区自主防災会は、鳥取県米子市両三柳(加茂地区)に位置する約100世帯の団地の自治会自主防災会であり、地区内で発生した火災がきっかけとなり団体を発足しました。

高齢化が深刻化する中、青壮年が不在となる平日の昼間に災害が発生した場合、在宅している高齢者や障がい者などの要配慮者の避難が遅れることがないように、いかなる場合でも住民の命を守る地域づくりが必要と考え活動をしています。

取組内容

「誰一人取り残さない避難」を目標とし、防災フェスティバル、防災研修遠足、防災クリスマス会などの皆が楽しめる行事を通じて、多くの住民が交流し、心配し合う心(支え愛)を醸成する活動を行っています。

防災フェスティバルでは、聴覚障がい者が講師となり、災害時に困ることを参加者に伝えるなど、障がい者への理解を深める講習も取り入れています。

さらに行政や米子市社会福祉協議会などの団体と連携強化を図り、自らの取組を地区外に発信したり、隣接する自治体へ働きかけ合同訓練を実施するなど、活動の領域を広げています。

取組の成果

「楽しさ」を加味した行事を通じて、多世代で多様な住民の参加を確保することで、青壮年が不在でも顔見知りとなった在宅の高齢者や家族世帯による平時の互いの見守りや災害時の迅速な初動対応が可能となり、目標とする「誰一人取り残さない地域づくり」に結びつきました。活動に共感した他組織と協働することで、多世代交流や障がい者とのコミュニケーションが防災に役立つことを広報し、「支え愛」地域の拡大に貢献しました。



防災フェスティバル

このように、普段から、地域における人的ネットワーク(つながり、結びつき)を広げ、地域コミュニティの強化を図ることが、いざという時に大きな力となります。

防災まちづくり大賞受賞団体の取組については、「防災まちづくり大賞受賞事例集」にまとめています。また、自主防災組織については、消防庁が作成した「自主防災組織の手引」に詳しく記載しています。それぞれ、下記のURLからご覧いただけますので、ぜひ参考にしてください。

●第29回防災まちづくり大賞受賞事例集(令和6年度)

https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/items/ikusei002_09_jirei29th.pdf

●自主防災組織の手引(令和5年3月改訂)

https://www.fdma.go.jp/mission/bousai/ikusei/items/bousai_R5_3.pdf

問合せ先

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室住民防災係
TEL : 03-5253-7561

令和7年に発生した大規模な林野火災に係る防災功労者消防庁長官表彰式の開催

総務省消防庁 地域防災室

令和7年6月10日(火)、中央合同庁舎第2号館3階消防庁長官室(東京都千代田区)において、令和7年に発生した大規模な林野火災に係る防災功労者消防庁長官表彰式が開催されました。

「防災功労者消防庁長官表彰」は、自然災害や大規模事故等の現場において、顕著な活動実績が認められる消防団を称えるものです。

今回、令和7年に発生した大規模な林野火災の発生に際し、地域住民の命と安全を守るために、避難の呼びかけや消火活動、夜間の見回り、情報収集等、発災直後から、昼夜を分かたず懸命に活動を展開された消防団6団体が本表彰を受賞されました。表彰式に出席された6団体に対し、池田消防庁長官から表彰状を授与しました。

また、受賞者を代表して、大船渡市消防団団長の大田昌広氏から謝辞をいただきました。

消防庁においては、消防団の更なる充実強化に向け、消防団員の確保をはじめ、処遇の改善、活動環境や装備の充実強化等、全国で活躍されている消防団員の皆様がやりがいを持って活動できる環境づくりに向けて、全力で取り組んでまいります。

○受賞団体一覧(6団体)

岩手県 大船渡市消防団
岡山県 岡山市消防団
玉野市消防団
愛媛県 松山市消防団
今治市消防団
西条市消防団



池田消防庁長官ご挨拶



表彰状授与



代表謝辞



記念撮影

問合せ先

消防庁国民保護・防災部地域防災室 消防団係
TEL: 03-5253-7561

令和6年(1~12月)における火災の状況(概数値)

総務省消防庁 防災情報室

1 総出火件数は37,036件、前年より1,636件の減少

令和6年(1~12月)における総出火件数は、37,036件で、前年より1,636件(4.2%)減少しています。これは、平均すると1日当たり約101件、約14分ごとに1件の火災が発生したことになります。

また、火災種別でみますと、次表のとおりです。

令和6年(1~12月)における火災種別出火件数

種別	件数	構成比 (%)	前年 同期比	増減率 (%)
建物火災	20,908	56.5%	▲66	-0.3%
林野火災	833	2.2%	▲466	-35.9%
車両火災	3,538	9.6%	17	0.5%
船舶火災	62	0.2%	4	6.9%
航空機火災	3	0.0%	2	200.0%
その他火災	11,692	31.6%	▲1,127	-8.8%
総火災件数	37,036	100%	▲1,636	-4.2%

2 総死者数は1,436人、前年より67人の減少

火災による総死者数は、1,436人で、前年より67人(4.5%)減少しています。

また、火災による負傷者は、5,742人で、前年より24人(0.4%)減少しています。

3 住宅火災による死者(放火自殺者等*を除く。)数は970人、前年より53人の減少

建物火災における死者1,193人のうち住宅(一般住宅、共同住宅及び併用住宅)火災にお

ける死者は、1,044人となっています。更にそこから放火自殺者等を除くと970人で、前年より53人(5.2%)減少しています。

なお、建物火災の死者数に対する住宅火災の死者数の割合は87.5%で、建物火災の件数に対する住宅火災の件数の割合53.7%と比較して非常に高くなっています。

(※放火自殺(心中を含む)者及び放火自殺巻き添え・放火殺人の犠牲者。)

4 住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)の4人に3人が高齢者

住宅火災による死者(放火自殺者等を除く。)970人のうち、65歳以上の高齢者は730人(75.3%)で、前年より32人(4.2%)減少しています。

また、住宅火災による死者の発生した経過別の内訳は、逃げ遅れ439人(前年比24人(5.8%)増)、着衣着火37人(前年比1人(2.6%)減)、出火後再進入16人(前年同)、その他478人(前年比76人(13.7%)減)となっています。

5 出火原因として最も多いものは「たばこ」、次いで「たき火」

総出火件数の37,036件を出火原因別にみると、「たばこ」3,038件(8.2%)、「たき火」2,770件(7.5%)、「こんろ」2,702件(7.3%)、「電気機器」2,548件(6.9%)、「放火」2,355件(6.4%)の順に件数が多くなっています。

問合せ先
消防庁防災情報室
TEL: 03-5253-7526

うちの

名物団員



羽後町消防団 第3分団 班長

中川 徹

中川さんは、大学を卒業後卸売り会社で競り人として働き、青果物の流通を学んでから秋田県に農業をするために帰ってきました。

近くで火事になった際平日だと人が集まりにくい現状を見て、農業と消防団との連携の良さを感じ入団。

地域では農家の高齢化が進んでいますが、従事している農業では就農当初より経営規模は3倍になりました。昨今のコメ騒動を見ているともう少し農家を大切にする風潮になつてもいいなあと語っています。

また、母校での農業体験授業は15年になりました。せっかく秋田で生まれたからには田植えや稲刈りを体験してもらいたいというのが動機のこと。苦労も多いですが毎年児童たちには喜んでもらっていて、逆にパワーをたくさんもらっているようです。

これからも地域の農業と安全を護っていく活動と今後の更なる活躍に期待しています。



只見町消防団 第1分団 分団長

鈴木 尚

町内の自動車整備工場に勤務し、第1分団長として分団をまとめながらも自ら率先して先頭に立ち、山や湖の搜索活動や火災現場で活動しています。仕事柄機械関係に精通し特に船や重機を使用した活動に長けています。やさしい性格ですが、非常に強面であるため、団員が良く指示を聞き、とても統制された団体行動が達成できています。



秋
田
県

福
島
県

芳賀町消防団 副団長

手塚 靖人

手塚副団長は、会社員として勤務する傍らで、自身で安全確保マニュアル案を作成するなど、精力的に消防団活動に尽力されています。

特に操法指導に熱心で、動画を活用するなど、団員のために工夫をこらした指導に取り組んでいます。

普段はラーメンの食べ歩きがお好きで、ラーメン〇郎を全店制覇するほどの情熱を傾けています。

そんなバイタリティあふれる手塚副団長の今後ますますのご活躍を期待しております。



佐那河内村消防団 第7分団 分団長

多田 和弘

佐那河内村消防団から、多田分団長を紹介します。

多田分団長は、村外から移住されてから今年の4月で22年をむかえます。現在、村内で宅配のお弁当店を営まれており、村内産や徳島産の食材にこだわった手作りの彩り豊かなお弁当は村内外で愛されています。

多田分団長は佐那河内村の消防団員として、村民が安心して暮らせるように地域防災の要として、しっかりと活動していくことを語っておられました。



太良町消防団 分団長

寺田 豊

太良町消防団からは、寺田豊分団長を紹介します。

寺田分団長は佐賀県太良町の竹崎地区でコハダ漁師として漁業を営まれています。

東京都中央卸売市場で取り扱いシェア全国3位となる佐賀県有明海産のコハダは、そのすべてを竹崎地区の漁師で出荷されています。

音に敏感なコハダを逃がさないため、不安定な船の舳先にじっと立ち、伝統の投網漁で豪快に一網打尽されています。また、足が速いコハダを新鮮な状態でみなさまの元へ届けるため、素早く丁寧に作業される技術を太良町消防団での日々訓練などに生かし、活躍されています。





地域密着、羽後町消防団！

羽後町消防団 本部長 佐藤 将彦

羽後町は人口13,000人程で、秋田県内陸南部の横手盆地の中に位置し、湯沢市、横手市、由利本荘市に隣接しています。物理的に津波の心配がなく、冬は特別豪雪地帯に指定されていて、昔から大きな災害のない地域です。

羽後町消防団は現在350人が1本部8分団に分かれて所属しています。

当消防団も全国の各市町村同様定員割れが続いているが、毎年10名ほど新規入団者がいます。数年前からは女性の入団があり、各分団に所属しています。また親子や兄弟で入団している方々もいます。

団員の中には伝統行事である、『仙道番楽』『元城獅子舞』『西馬音内盆踊り』各種団体や実行委員、各地区の神社の行事やイベント等に積極的に関わり、地域住民との繋がりが強い方が多くいます。いくつかの地区には『消防後援会』という組織があり、その分団や団員をサポートしています。

訓練等活動内容は、別々の日に行っていた訓練を同一日にしたり、消防協会支部と連携し『こども園』に出向いて防災教室を行っている他、日本三大盆踊り『西馬音内盆踊り』では本番の3日間各分団持ち回りで、かがり火警戒や広域消防職員と共に全国から来場する観光客や踊り手の急病人や体調不良者の対応に当たっています。

団員が勤めている町内的一般企業では、業務中に発生した火災や各種災害に対しての出場に積極的に協力してくださる事業者が多くあり、非常に助かっています。

羽後町でも、ある日突然襲ってくる自然災害等に対応できるよう地域住民の協力を得ながら地域防災の維持向上と体制確立を図るために、日々の活動や訓練に取り組みを続けます。



消防団の広場

栃木県

地域防災力の中核として

市貝町消防団
団長

佐藤 兼二



市貝町は栃木県南東部に位置し、総土地面積は6,425ha、林野面積は2,378ha、人口約11,000人で「日本一の里地里山」と称賛されるほど自然環境に恵まれ、とくに絶滅危惧種の渡り鳥・サシバが多く生息しており、生息密度は日本一といわれています。また、町内を走る真岡鐵道には休日になると「SLもおか」が運行し、鉄道ファンや子どもたちに人気のスポットとなっています。

市貝町消防団は現在181名、2分団15部で構成され、地域の皆様の生命、身体、財産を守るために、消防署、警察署と連携し活動をしています。

令和6年2月に総務省消防庁の「消防団の力向上モデル事業」を活用して消防団としては県内初となるドローン航空隊を発足し同年4月1日(月)より運用を開始しました。現在

4名の団員が操縦士の資格を取得し火災、他の災害、行方不明者捜索などに備え、迅速、的確に活動できるよう訓練を重ねています。その他の訓練については、当町は紹介のように、山林も多く、季節、場所によっては火災発生時、遠距離送水が必要となる場合もあるため、1km以上の中継送水訓練の実施、救助が必要となる災害に対応できるよう救助機材の取り扱い訓



練、救命講習会などを行っています。

また、地域の皆様の災害、防災、減災に対する知識の向上になればと、消防署の協力を得て「防火消防フェア」を令和5年度より開催しています。放水体験をはじめ水消火器での消火体験、はしご車の搭乗体験、VR防災体験車でのVR災害体験、消防車、ドローン展示などを内容としました。来場し体験してもらった子供たちの真剣な眼差し、笑顔が印象的でした。これも協力をしてくれる消防署の皆さん、団員がいるからこそだと心より感謝しています。

ここ数年、当消防団も団員数の減少、新入団員の確保、その他にも様々な課題も抱えていますが、地域防災力の中核として団員一丸となって、大好きな市貝町を守り続けていきたいと思います。



不定期連載

図書館長の小部屋

(公財)日本消防協会 資料室・総務部



日本消防会館の6階には図書室があります。この図書室は、昭和56年に旧日本消防会館が建設された当時に収集された図書類を引き継ぎ、現在も(公財)日本消防協会が制作した印刷物や図書類、総務省消防庁および消防関係団体から寄贈された資料等を整理・保管しています。

この図書室は、消防関係者だけでなく、一般の方々にも自由に利用していただけるよう設けられています。他では閲覧できない貴重な蔵書もあり、大学で消防史を研究されている方が訪れることもあります。

このコーナーでは、不定期で蔵書の紹介を行ってまいります。皆様も、日本消防会館にお越しの際は、ぜひ6階の図書室にお立ち寄りください。

図書室利用方法

(公財)日本消防協会 資料室・総務部(日本消防会館7階)にて、必要事項をご記入の上、ご利用ください。

日本消防会館 6階 図書室

日本消防協会 一般図書・参考書類	日本消防協会 一般図書	日本消防協会 制作印刷物類	CD・DVD類 (日本消防協会・他団体制作)	日本消防協会各部制作 印刷物置き場
「消防百年史」 他日本消防協会 制作図書	「消防白書」 等消防庁 制作図書・ 印刷物類 「市町村 要覧」等	防災・災害 関係 赤穂義士 関係	防災・災害 関係 東京大空襲 大災害関係	都道府県史 市町村史 国の政治 経済関係 外国消防関係
日本消防協会 機関紙 「日本消防」 自治体 消防 周年 記念事業	総務省及び 消防庁制作 図書・ 印刷物類	都道府県 ・市町村 消防活動 関係	防災・災害 関係 消防法関係 大漢和辞典	測量等統計 関係 災害調査 報告書関係 国・政治 経済関係
「大日本消防」 日本消防協会 機関紙 「日本消防」 自治体 消防周年 記念事業	総務省及び 消防庁 関連団体 制作図書 印刷物類	都道府県 市町村 消防活動 関係	関東大震災 阪神・淡路 大震災 東日本大震災 熊本地震 その他の 地震等関係	江戸消防 皇室関係 国・政治 経済関係 警察・警察史 関係
入口				椅子 椅子 机 机

○当協会に寄贈いただける図書等がございましたら、ご連絡ください。

(公財)日本消防協会 資料室・総務部
TEL: 03-6263-9485

2025年度 全国統一防火標語

「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

令和7年10・11月の日本消防協会関係行事

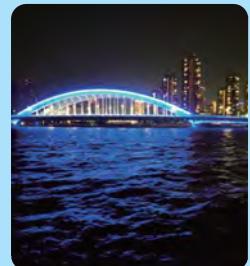
- 10月12日(日)　日中消防定期協議会（北京）
10月27日(月)　第26回全国女性消防操法大会激励交流会（神奈川県横浜市）
10月28日(火)　第26回全国女性消防操法大会（神奈川県横浜市）
11月13日(木)　第30回全国女性消防団員活性化長崎大会（長崎県長崎市）
11月19日(水)　日中韓消防協会会議（ソウル）

編集後記

8月、9月は台風や大雨による災害が多いと言われていますが、この夏も各地で被害が発生しました。被災された地域の方々に、心からお見舞い申し上げます。編集担当TKです。

写真は、隅田川に架かる永代橋です。創架は江戸・元禄の世に遡りますが、その後改架を繰り返し、現在の橋は大正15年（1926年）に再架橋されたものです。大正12年（1923年）9月1日（土）に発生した関東大震災で被災後、隅田川で最初に竣工した震災復興橋梁だそうです。川面に揺れる青い光が、震災で亡くなられた方々の魂を鎮めているようで、落ち着いた気持になれる場所からの一枚です。

9月以降も台風や秋雨前線による大雨の心配は続きます。今一度、災害への備えを確認していただければ幸いです。



お詫び

日本消防2025年8月号p.29「ぼうさいこくたい2025 in 新潟 令和7年9月6日・7日開催」において、出演者に誤りがありました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

正：

出演者
中野 雅嗣氏（NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長）
櫻澤 秀子氏（新潟県女性防火クラブ連絡協議会会长、
　　水沢女性防火クラブ会長）
門前 浩司氏（総務省消防庁国民保護・防災部長）
中村 広栄氏（新潟県防災局長）
豊田 光世氏（新潟大学佐渡自然共生科学センター教授）

誤：

出演者（五十音順）
門前 浩司氏（総務省消防庁国民保護・防災部長）
中野 正嗣氏（NPO法人ふるさと未来創造堂事務局長）
櫻澤 秀子氏（水沢女性防火クラブ会長、新潟県女性防火クラブ連
　　絡協議会会长）
豊田 光世氏（新潟大学教授）

購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,508円
(問合せ先) 総務部企画担当 03-6263-9496

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受け付けしています。 kikou@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第七十八巻第九号
令和七年九月五日印刷
令和七年九月十日発行

編集人 米澤 健
発行所 (公財)日本消防協会
印刷所 東京都港区虎ノ門一丁九一十六
電話 ○三(3223)九四〇一(代)
株式会社アイネット
電話 ○三(3549)五六〇〇

令和
年
月
日
月
日
行
行

日本
消
防

第七十八卷第九号

消防人の 火災共済

風水雪害等共済金 補償倍率UP 300倍から 750倍へ

まさかの時お役に立ちます。
掛金25口、2,500円(56%以上の焼損)
火災共済金375万円のお支払い 1500倍補償

B型火災共済 消防団 毎に皆で加入

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。
落雷の損害にも対応!! 建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部(消防協会)へ。

お支払対象

- 火災共済金 火災・落雷・爆発・破裂
- 風水雪害等共済金 風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等
- 地震等災害見舞金 地震・津波・噴火

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-6263-9822
詳しくはホームページをご覧ください <https://www.shouboujin.or.jp/>



消防団員・消防職員だからこそ加入できる

消防個人年金

積立金には予定利率(年1.25%)、配当率が適用されます。

老後生活に向けた
計画的な財産形成
が可能です。

月払の場合、
毎月一万円(ゆうちょ
銀行は五千円)から
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、
年金(6種類)又は
一時金からご選択
いただけます。

途中で脱退しても、
積立金(脱退一時金)
が受け取れます。

税制適格コースは
個人年金保険料控除
自由選択コースは
一般の生命保険料控除
の対象となります。

消防団員、消防職員
の退団・退職後も
継続できます。

(パンフレット・加入申込書のお取り寄せ、お問い合わせ先)
公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

0120-658-494 平日 9:00~17:00

お問い合わせ先

各市町村の消防事務担当者または消防本部消防団事務担当者、都道府県消防協会

(公財)日本消防協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目9番16号
TEL.(03)6263-9401 (代表)
<https://www.nissho.or.jp>